

山村学園短期大学紀要

第 33 号

橘 和代 酒井 誠 巢立 佳宏

保育現場における新聞紙遊びの現状を探る

— 表現(造形)的視点を加えて — (1)

室井 佑美

保育者養成における体験型学習による学生の学習効果に関する一考察

～学内子ども参加型イベントでの実践に対するふりかえりレポートから～

..... (17)

楠原 竜也

よしみけやき保育所体操

『へんしんからだあそび バビブベポッ!』の創作過程報告

— 令和4年度武蔵丘短期大学・山村学園短期大学共同研究より —

..... (29)



山村学園短期大学

子ども学科

令和4年

保育現場における新聞紙遊びの現状を探る

－ 表現（造形）的視点を加えて －

Exploring the current situation of playing with newspapers in childcare settings

－ Add appeared (a modeling) perspective －

橘 和代

酒井 誠

巢立 佳宏

Kazuyo Tachibana

Makoto Sakai

Yoshihiro sudate

要旨

保育現場における新聞紙遊びの実際に焦点を当て、新聞紙を使用した遊びの種類から保育者の意図的な「環境構成」と「素材」が子どもの主体的な遊びにどのように結びつくかについて整理し考察した。結果、年齢別で新聞紙の活用内容が異なること、また保育者が素材の特徴を理解し意識して子どもたちの遊びに取り入れていること、さらには保育所保育指針の保育内容と子どもの年齢に応じた遊びを考えながら取り入れていることが明らかになった。よって、新聞紙という素材が保育現場において、その他多々ある教材や素材同様、またはそれ以上の効果をもたらすということが示唆された。

さらに、保育者らの回答から「安全性・廉価性・利便性」を備えた新聞紙の活用にはまだまだ未知の可能性と課題があることも示唆され、保育者養成校においては、その様々な特性や安全性などを踏まえた専門性的教育が必要となる。

キーワード 新聞紙遊び 保育内容 環境構成 造形表現 主体的な遊び

1. 研究の背景と目的

近年、保育を必要とする世帯割合の増加に加え、保育の質向上が課題となっている。加えてコロナ禍による社会的ダメージは計り知れず、社会や親の都合が先行する中、保育所や認定こども園などで生活する乳幼児の主体的な遊びと子ども側に立った保育の質について議論する場は少ない。保育の現場では、保育所保育指針などに沿って、一人ひとりの乳幼児の発達を支援しながら保育を行っている。それぞれの園の理念とその独自性を生かし、環境を通した保育や保育内容（健康・表現・言葉・人間関係・環境）を総合的に捉えて保育を行っている。幼稚園および認定こども園においてもそれぞれの教育要領に沿った教育・保育を行っている。

これまで筆者は、遊びの素材としての新聞紙の可能性を探り、「子育て支援」の立場から各種感覚（視覚、聴覚、嗅覚、および触覚）を刺激させるという発想に基づいて新聞紙

の活用法を考えてきた（2020,橘）。また、幼小連携や NIE を視野に入れた新聞紙遊びを創造し、将来の教育（OECD Education 2030）を見据えた他分野との連携（IT・福祉・医療など）においても模索している（図1）。

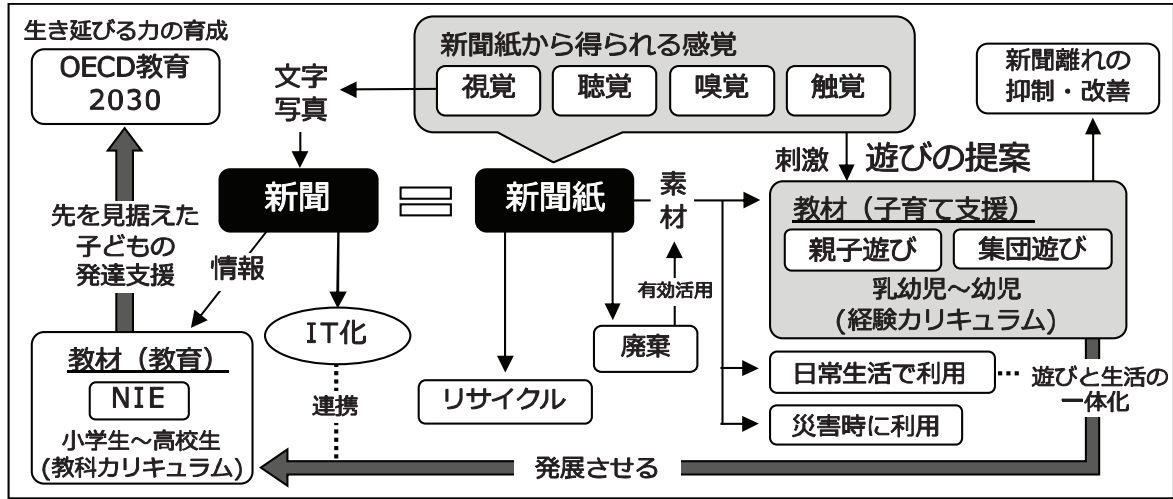


図1. 新聞紙が教育に及ぼす効果と可能性について（2020, 橘）

新聞紙には、「破る、ちぎる、ねじる、裂く、まるめる、たたむ、投げる、受ける」といった指先や手を使った素材の感触を楽しめる特性があり、また、その薄さや柔らかさは、乳幼児をはじめとした子どもの各種感覚を刺激する素材として最適であると考えられる。しかし、インターネットの普及により新聞購読者数は減少（日本新聞協会, 2010）し、それに伴い、新聞紙を使った遊びを知らない子どもが増加していると推察する。新聞紙が家庭から喪失しても子どもの生活に殆ど支障はないが、自身のこれまでの実践から、身近な素材の新聞紙が保育現場や家庭において柔軟性および発展性のある遊びの素材として活躍してきた事実は否めない。これまでに行ってきた子育て支援センターなどの保護者アンケート（2020,橘）では、「子育て支援センターに来て新聞紙遊びを経験しなかったら、こんなに身近に親子で楽しめる素材があることに気づけなかった」や「経費削減を理由にWEB新聞に切り替えたが、果たして良かったのか」、「子どもに毎日でもさせてあげたいが、片づけを考えるとなかなかできない」「子どもと共に新聞紙をくしゃくしゃに丸めて遊ぶことで自身のストレス解消にもなる」などの記述があり、保護者自身の新聞紙に対する評価が変わる内容も散見した。以上のことから、多々あるリサイクル紙の中でも、新聞紙は乳幼児の遊びに有効な教材（素材）であり、乳幼児の発達と大人（親や保育者）との良好な関係づくりに貢献できるのではないかと考えた。

先行研究では、滝村と野中（2011）は、「発達障害児への地域での支援」として親子教室で行っている遊び（活動内容）を、製作活動、操作活動、および粗大活動の3つに分類している。粗大活動系においては、「母親に新聞紙で作ったボールを投げるようにせがんだり、親子で協力して遊んだりする姿が見られた」などの報告がある。新聞紙の素材を活かした親子で実施できる遊びは両者の関係性を深めるものであり、一般の乳幼児において

も有効であると考える。

江刺家と滝澤（2015）は、幼児の発達と保育者による運動遊びの指導の在り方について新聞紙を使った活動を事例に幼児期の運動発達とその指導のあり方について述べ、新聞紙を使うかどうかにかかわらず、その指導にあたって子どもの遊びを方向づける保育者の関わりの基本的な原則に基づく留意点をしっかり押さえておく必要がある、と述べている。また、南谷（2022）らは、3歳児クラスの新聞紙を用いた創造的な音遊びに着目し、音遊びプログラムによる幼児の音と関わる姿に見る気づきと保育への影響について論じている。音を介して子ども自ら環境(新聞紙)に関わり、自分なりの創意工夫により音との関わりについて遊びを通して学んで行くことの示唆を得たことに加え、発達を保証する保育者の役割は大きいと結論づけている。

本研究では、これらの先行研究を参考に保育現場における新聞紙遊びの現状を探り、「新聞紙素材」と「保育者の意図的な環境構成」について整理する。加えて、保育者養成校としての視点で造形的な新聞紙遊びの効果について明らかにし、両者の立場で保育現場における新聞紙遊びの効果や課題について整理することを目的とする。

2. 研究課題および研究方法

（1）研究課題

本研究の課題を以下に示す。

- ①保育者の意図的な「環境構成」と「素材(新聞紙)」が「子どもの主体的な遊び」にどのように結びつくかについて保育者の意識調査（自由記述）から考察する。
- ②造形的視点による新聞紙遊びの実際とその内容について「保育者養成の立場」から考える。

（2）方法について

- ①WEB アンケートの実施（全国の保育者を対象に無作為に行った）
- ②保育所保育指針の「発達過程」および「ねらい」と「内容」に基づく考察

実施期間：例令和4年8月～12月

回答数：72名（アンケートの依頼を全国の保育所・認定こども園などの代表者および大学関係者などに依頼し、WEB アンケートで回答および回収を行なった結果、72名の回答が得られた。

有効回答数：分析可能な回答数は70であった。

分析および考察の方法：全ての自由記述から乳幼児の動作、遊びの種類、保育者のねらいや意図が読み取れる語彙を抽出し、保育所保育指針に基づき精査、考察を行なった。また、その信用性・信頼性・妥当性について保育および造形表現の専門的な視点で吟味し、保育者が新聞紙を使ってどのような遊びを行なっているか、また子どもとどのように関わっているかについて考察した。さらに、集計したデータをもとに＜USERLOCAL 社＞のテキ

ストマイニングを行い、子どもの動作を表す出現頻度の多い語彙について確認し、前述の考察と照らし合わせた。

3. 倫理的配慮

アンケート調査では、本研究の主旨および目的について説明し、本調査で得られた情報は個人が特定出来ない数値として扱われること、また、回答は自由意志であることを記載した。さらに、得られた結果は科学研究などに使用されることを記載し、回答を持って同意の意思とみなした。

アンケートの回答者の属性は、以下のとおりである。

①地域	人数	構成比(%)
福井県	35	58
東京都	20	29
千葉	4	5.8
神奈川	2	2.9
石川	1	1.4
山口	1	1.4
滋賀	1	1.4
		n=70

表.1 地域

③性別	人数	構成比(%)
男性	8	87.7
女性	57	12.3
		n=70

表.3 性別

②年齢	人数	構成比(%)
20代	30	45.7
30代	15	25.7
40代	8	11.4
50代	7	10
60代	5	7.1
		n=70

表.2 年齢

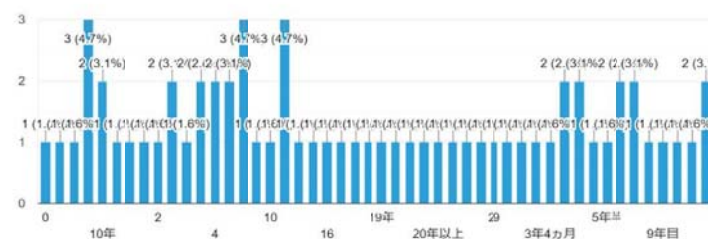
④職種	人数	構成比 (%)
保育士	51	78.5
幼稚園教諭	3	4.6
保育教諭	2	3.1
児童養護 (ケアワーカー)	1	1.5
児童館職員	1	1.5
その他	7	11.8
		n=70

表.4 職種

4. 結果と考察

地域は福井県および東京都が多数、年齢は、20代30代が過半数で女性が多かった。経験年数にはばらつきがあるが、8割が保育者経験3年以上であった。5年以上の経験者は約7割、10年以上は約4割であった。このことから、回答者の7割近くは各年齢の保育の経験値があるのではないかと推測される。

Q4.経験年数
64件の回答



⑤経験年数	人数	構成比 (%)
30年以上	5	7.5
20年以上	6	9.1
10年以上	17	25.8
5年以上	17	25.8
3年以上	10	15.1
3年以下	11	16.7
		n=66

図.2 経験年数のばらつき

Q6あなたの園では新聞紙を使った遊びを保育内容に取り入れていますか？
64件の回答

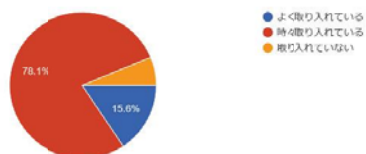


図.3 保育における新聞遊びについて

新聞紙を使った遊びで、一番よく使う場所をひとつに決まらぬにさい。
60件の回答

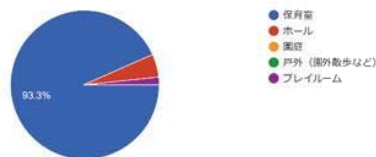


図.4新聞遊びをよく行なう場所について

新聞紙遊びをどのような場面で取り入れていますか？（いくつでもお選びください）

60件の回答

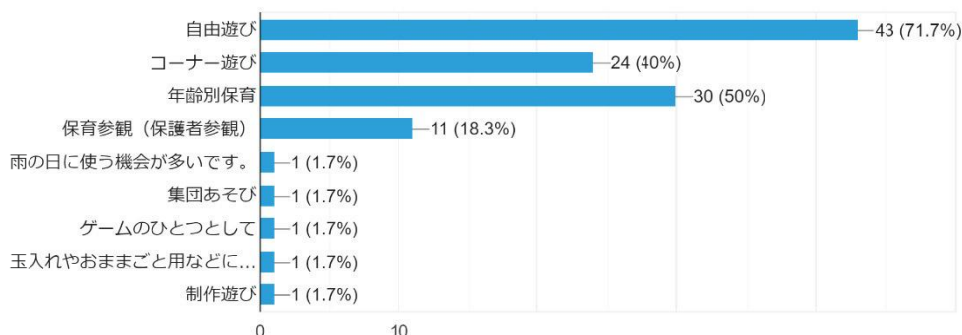


図.5 新聞遊びをよく行なう場面について

次に、新聞紙を使った遊びを①保育内容に取り入れているか②どのような場所で遊んでいるか③どのような場面で遊んでいるかについて質問した。結果、新聞紙遊びをよく取り入れているが15.6%、時々取り入れているが78.1%であった〔図.3〕。9割以上の保育者が新聞紙遊びを取り入れていると答えていることから、保育内容の素材として新聞紙を取り入れているということがあきらかになった。②の問いのどこで遊んでいるかについては保育室が93%を占めていた。次いで、ホールやプレイルームが挙げられていた。今回の調査では、戸外や園庭は0であった〔図.4〕。③の問いの遊びの場面では、自由遊び、年齢別保育、コーナー遊びの順に多かった〔図.5〕。このことから、保育者が新聞紙を使って保育を行う場合、日々の保育の中で一番身近な保育室で行なわれている事が示された。そこで、広いスペースで身体全身を使った遊びは行なわれていないのか、といった疑問が浮上した。破る、ちぎる、まるめるといった手先や指先を使った遊びに偏っていないかという点について、③の質問のどのような遊びを行うかという問いの回答結果を基に考察する。0～2歳・3歳児・

4歳児・5歳児の年齢別の全ての自由記述を抽出し、乳幼児の動作を【 】, 遊びの種類を「 」、保育者の意図やねらいが読み取れる内容を< >で、オノマトペを()で示し分類した。

この回答および分類をもとに①の課題について考察する。

まず、年齢別での遊びを概観すると、0・1歳児の保育者の回答にいくつかの大きな特徴が見られる。1. 保育者の回答にオノマトペが多く使用されていること、2. 「感覚」「感触」「音」といった五感を意味する語彙が多いこと、3. 「投げて」「渡して」「降らして」「いないいないばあ」というように保育者とのやりとりで楽しむ様子がうかがわれることである。また、「～のように」や「見立てる」という語彙から乳幼児のイメージを膨らませる意図的な環境構成が読みとれるとともに、保育所保育指針おおむね1歳の発達過程の、「応答的に関わる」特定の大人との情緒的な絆の形成も読み取れる。

次に、2歳児の保育者の回答の特徴として、0.1歳児で出てきた【見立てる】が増え、「～ごっこ」といった何かになりきったり、保育者や友達とのかかわりを楽しんだりする保育の意図も読み取れる。また、0・1歳児では、【ちぎる】や【破る】が多かったが、2歳児では、それに加えて【丸める】【まく】【ふらせる】【作る】といった手指や腕の操作が多く出現している。また、ボールにして遊ぶやしっぽにする、袋に入れて遊ぶ、片付け競争など保育者を介して友達とかかわる遊びが2歳児の特徴を表している。保育所保育指針おおむね2歳の、指先の機能が発達する、象徴機能の発達により大人と一緒に簡単なごっこ遊びを楽しむ事ができるようになるという発達過程と重なる。

3歳児では、まず保育者の回答に「ビリビリ」などのオノマトペが減っていること、遊びの種類が豊富になっていること、保育者を介しながらも友達との協力や競争などを楽しむ遊びが出現していることなどの特徴が見られる。【動作】においては、【身にまとう】

【つくる】【つなげる】【運ぶ】【穴を開ける】【走る】といった手先だけではない身体を使った遊び方が増えている。また、しっぽとりゲームのようなゲーム性のある遊びも出現し、保育所保育指針のいろいろな遊びの中で十分に身体を動かすという内容につながる。また発達過程においては、おおむね3歳の象徴機能や観察力を発揮して、遊びの内容に発展性が見られる。

4歳児では、3歳児の【運ぶ】【つなげる】に加え、【乗せる】【ひねる】【投げる】など、上半身の巧緻性を必要とする動きを表す語彙が出てきた。また、「ののじあそび」や「ひらがなあそび」といった新聞紙の素材ではなく、新聞に書かれている文字を使った遊びの出現も興味深い。加えて、ジャンケンやリレーなどグループでの簡単なルールのある遊びも出現する。長さを【競う】【比べる】に加え【テープでとめる】なども出現していることから、保育所保育指針発達過程おおむね4歳の、創造力が豊かになり、目的を持って行動し、つくったり、書いたり、試したりするようになるにリンクする。

5歳児になると、かなり複雑化した動作や、遊びの種類、保育者の保育内容に対するねらいが読み取れる表現や語彙が目立つ。3歳児に出現したゲーム性のある遊びとジャンケ

ンの出現頻度が圧倒的に増えており、加えて製作性のある遊びや、創造力を高める遊びも増えている。新聞リュック、輪投げ、玉当て、陣地とり、迷路作り、ピラミッド作りなどのように作りたい物や遊びたいことがはっきりしており、＜各々に＞や＜自由に＞、＜アイデア＞や＜相談＞といった語彙からは、子どもが主体となって遊ぶ様子、また友達や保育者と話しあって遊ぶ保育者のねらいも読み取れる。集団性のある遊びと個の遊びが多く出現している点が5歳児らしい。おおむね5歳の発達過程、言葉により共通のイメージを持って遊んだり、目的に向かって集団で行動したりすることが増えると言う特徴と重なる。

また、【折りたたむ】【切る】【のりで貼る】【創造して作る】【組み合わせる】【共同製作】などはまさしく造形活動を意図していると考えられる。保育所保育指針おおむね6歳では、予想や見通しを立てる力が育つ、役割の分担が生まれるような共同遊び、創意工夫を重ね、遊びを発展させるとあり、ここでも結果とつながる。

0-1歳児	【ちぎる】 【まるめる】などの遊び 「おおかぜこい」にあわせて＜風をおくる＞ 【ちぎり】あそび ＜感覚あそび＞這い這いする。新聞紙を手に【もって】みる。(ふわふわ) っとさせる。ちぎった新聞紙を＜雨のように降らせる＞。「新聞紙のプール」 【ちぎる】、【丸める】。新聞紙風呂 (ビリビリ) 【破ったり】、＜音や感触を楽しんだり＞する 【ちぎったり】 【丸めたり】する。 【丸めた】ものを「＜袋に入れてボールのように遊び＞ました」 袋に入れたものに＜目や耳をつけて動物に見立て＞ました。 【ちぎったり】、上下に【揺らし】て＜風や音を楽しんだり＞しています。 【握る】、【破く】 【ちぎったり】 【丸めたり】 「＜音や感触を楽しむ＞＜新聞の雨を降らせて楽しむ＞」 「【丸めて】ボールに」して「【投げて】遊ぶ」 (びりびり) やぶる 上から新聞を(ひらひら) など 新聞(ビリビリ) 新聞紙【ちぎり】「新聞紙での洋服や指輪作り」「玉入れ」 「新聞紙シャワー」 (ビリビリ) 【やぶく】 新聞を【ちぎったり】 (くしゃくしゃ) にして【丸め】たり＜子ども達が自由に感触を楽しんで＞遊んだり、保育士が「新聞紙で作ったほうきや食べ物を渡して楽しんで新聞紙を(ビリビリ) する」 ＜子どもが好きなように＞ (ぐちゃぐちゃ) にしたり、「ボールにしたり、棒にしたりして遊ぶ」 【ちぎって】、 「雪のように【降らせて】遊ぶ」 (ビリビリ) にする 「ボールを作的当てる」 「細かくちぎって花吹雪」 など 【ちぎって】 (ヒラヒラ) 「新聞プール」 「いないいないばあ遊び」 や「新聞プール」「＜子ども自ら＞【破った】り【丸めたり】して楽しむ」 「新聞プール」「わなげ」(ビリビリ) 【破る】＜「感覚遊び」＞ (ふわふわ) と＜「感覚遊び」＞ (ビリビリ) 【破る】 「新聞紙プール」 「新聞紙【投げて】上から(ひらひら)」 ※食べてしまうおそれがあるので使わないです ＜「感覚」あそび＞ 「(ビリビリ) 【破いて】あそぶ」「新聞プール」「お団子遊び」 「(びりびり) ちぎる」「いないいないばあ」 「布団に＜見立てて＞寝る」 「細かく【ちぎった】ものを上から降らせて遊ぶ」 【ちぎる】、(ぐちゃぐちゃ) にする、【穴を開ける】などする。 【破いたり】 【ちぎったり】 して＜指先や感触の遊び＞ ダンボールに【ちぎった】新聞紙を【集めて】＜お風呂ごっこ遊び＞
-------	--

	(カサカサ) する<音を聞かせ>たり「プールに破った新聞を入れ新聞プールにする」 (びりびり) <【破いて】見せたり>、「いないいないばあをしたり」、<保育士とのふれあい遊び> 【ちぎったり】 【丸めたり】 「雪と<見立てたり>して遊ぶ」 【ちぎって】、丸めて「<落ち葉のように>かけてあそぶ」<最後はお片付け競争> 【破いたり】 【丸めたり】 【降らせたり】 「いないいないばあ<感触遊び>」 (ビリビリ) 【やぶく】 【まるめる】 【やぶる】、【さわる】、【ちぎる】、<あなを【あけて】 【のぞく】> 「細かく or 細く 【ちぎり】 【まく】」
2歳児	「新聞紙プール」 「新聞プール」 「【ちぎったり】 【丸めて】遊ぶ」 【ちぎり】あそび 「保育士と【ちぎって】あそぶ」 【ちぎった】ものを<雨のように降らせる> 「ボール、洋服、新聞紙風呂」 「兜」や「襟をくりぬいてワンピースにして、ファッションショー」 「お布団とお腹にかけて寝てしまう」予もいた <自分で> 【丸めたり】、【ちぎったり】して【投げたり】<舞いながら落ちてくる様子を楽しんだり>する 2歳児後半は「剣やマントなどを<自分なりに作る>などしていました。」<破いたもので保育士が衣装などを作る> 「【ちぎって】遊ぶ」 「傘に【やぶった】新聞を入れて傘を<回転させて>新聞を【降らせる】」 新聞を【やぶる】破いた新聞を【まく】、【丸める】、【投げる】 「新聞に【穴あけ】、繫げて衣服に見立てる」 (クシャクシャ) (ビリビリ) (ふわふわ) 乳児クラスと同じ。自分で【作れる】ようになるのと<興味が増えてきている>ので、 「ほうきや食べ物を<自分で【作って】>楽しんでます」 「新聞紙で、剣やステッキなど作って」、「戦いごっこ」したり、「衣服やアクセサリを作って、オシャレ遊びをしたり」など 「新聞でいろいろなものを【作ったり】 【破ったり】して遊ぶ」 「剣やボールを【作ったり】、服にしたりする」 「新聞紙の上に風船をのせ<2人で>落とさないように【運ぶ】」 「新聞ボールづくり」 (ビリビリ) 【やぶる】 新聞のお洋服、「なりきりごっこ」、【丸めて】、「【投げる】的【当て】 輪投げ」 ボール作っての【当て】 「お洋服屋さん、変身ごっこ」 「新聞破り遊び ボール遊び」 「バック【作り】や新聞紙破り」 ひたすら【ちぎる】 「くるくる棒 ボール 新聞紙【やぶり】、帽子」 「ハタキやクイックルワイパーのようなものを作って」「お掃除ごっこ」 【ちぎって】遊ぶ、「【乗って】そりにする」、「しっぽにしてしっぽ取りをする」 「<感覚>あそび」 新聞ボール 新聞をつかって剣など<自由に作る> 【ちぎる】 【ちぎる】 「ポリ袋にいれてボールにして遊ぶ」 たくさん【ちぎって】お風呂に【見立てる】、細かく【ちぎって】上から【降らせ】て遊ぶ 【ちぎった】ものを【丸める】 【穴を開け】てお面のようにする 「玉入れ風にする」 【ねじって】棒にして「ごっこ遊び」 たくさん【集めて】大きくばら【まいたり】して<自由な遊び> (ビリビリ) 【破って】 雨降りにしたり 最後は【丸めて】ボールにしたり「ダンボールカゴに【入れたり】して遊ぶ」 【ちぎったり】 【破く】 <感触遊び>を楽しむ「その後ビニール袋に入れて遊ぶ」 「カバン・おにぎり・帽子・【ちぎって】遊ぶ」 【ちぎって】、【かけて】 【投げて】、【丸める】などその「後片付け競争」また、<遊んだあと製作遊びの材料にする> 【破いたり】 【丸めたり】 【降らせたり】、「【長くして】電車などの<見立て>遊び」 <見立て遊び> 【ちぎる】、【さく】、「ほうきなど【つくって】そうじごっこ」、【ちぎって】 【まく】

	「しっぽにする」 （ビリビリ）と【破く】 「新聞プール」 「アンパンマンになりきって、マントにして遊ぶ」 その後、アンパンマンで大きな新聞を【破る】」 最後に袋の中に新聞を集め、＜袋に絵を書いてあげる＞と大事に持っている
3歳児	「新聞プール」「しっぽとりゲーム」 ボールにして【投げる】 【ちぎって】 あそぶ 「洋服、玉入れ」「秘密基地作り」 「シッポ取り」のシッポ 「お店屋さんごっこで使いました」 ＜自分で創作＞ 「【ちぎって】遊んだ後に新聞プール」 新聞を【パンチ】して【穴をあける】 「＜見立て＞遊び」など 新聞ボールで【投げ合う】 「筒状にして剣にし、戦いごっこ」 【破って】遊ぶ ＜運動会の玉入れに向けて＞新聞紙を【丸めて】 「かごの中に新聞紙を【入れて】遊ぶ」 「新聞【玉入れ】をしてよく遊んでいました」 「玉入れゲーム」など 「輪投げの輪っか【づくり】」、「新聞を使ってボール【運び】」 「風船運びリレー」の時に風船を新聞紙に【乗せて】 【運ぶ】 剣、マント、服 「なりきりごっこ」「剣、ほうき、変身棒」 「新聞乗りジャンケン」 「新聞紙ゲーム」 新聞お風呂遊び バックや新聞紙破り 新聞紙ボール 【長くちぎる】、長く【ちぎった】のを【ジャンプ】したり風にして【走ったり】して遊ぶ 「製作」2歳児と同じ 「【丸めて】かごに【いれる】」 「新聞紙プール」 【ちぎって】 【丸めた】ものに【テープを貼る】、 ＜ピクニック風にして敷物として使用する＞ 「食べ物などに＜見立てて＞遊ぶ」などする。 「沢山固まりを作り、【テープで止めて】上から【絵の具を塗り】、 お芋に＜見立てたり＞する」 「ごっこ遊びに使う」 新聞紙を【身にまとい】、「変身遊び」 「造形あそび・カバン・おにぎり・帽子・ちぎって遊ぶ」 【ちぎって】、【かけて】 【投げて】、【丸める】などその「後片付け競争」。 また、遊んだあと「遊びの材料にする」 「長くして友達と【繋げたり】」、「ボールを【作ったり】」、＜自由な発想で遊ぶ＞ 「廃材あそび」 「しっぽとりゲーム」、「ひたすら【ちぎる】」、「ベルトとけん【つくって】たたかいごっこ」 「新聞ボールでボーリングや的【当て】」 「新聞にお絵【描き】」
4歳児	「廃材遊び」 「ののじさがし」「ひらがな遊び」 ボールを【つくって】、まとに【投げる】 「新聞紙の島【わたり】」 【作って】 あそぶ（剣など） 「新聞紙を使ったゲーム」 「秘密基地作り」 「＜自分で＞創作」 ＜新聞じゃんけん遊び＞、どれだけ長く【ひきさく】ことができるか遊び 「剣作り」 「【長く破って】みる」 「お腹に【当てて】、落とさないように【走る】」 「新聞紙で制作 剣作り」 「変身ごっこ」 「新聞紙で洋服を【作る】」「おままごとのレジャーシートや食べ物にして楽しむ」 「ボール【運び】」、「自由制作」 「新聞じゃんけん、剣づくり」 「剣作り、服【作り】 洋服、剣、リボン 海を【作る】」 岩や魚＜イメージした物を立体的に＞

	「釣竿を【作る】」、剣<ごっこ遊び> <新聞乗りジャンケン> <新聞紙じゃんけん> <新聞リレー遊び> <新聞紙でボール【運び】> 細長く【丸める】、ボール状に【集めて】【キャッチ】 「ボールや玉入れのようにして遊ぶ」<製作> <ミニゲーム> 「新聞紙の上に風船を【乗せ】て【運ぶ】遊び」、スタートとゴールを決め慣れてきたら コーンなどで少し難易度を上げたりする。まずは1人で【落とさないよう】に【運び】、 慣れてきたら<友達と一緒に【運ぶ】ことも取り入れる。> 新聞紙でものを【はこぶ】 <【テープでとめて】衣装にする> 特定の食べ物の【形に丸めたり】【捻ったり】して形付けたものに折り紙等を糊で貼り、 <目的のものを【作成する】。> 【長くひきさける】かな？ 「新聞で最初は大きいところに【乗り】じゃんけんで負けたら小さく【折って】、乗れな くなったら負けのゲームをする」 棒状に【丸めて】、<剣やステッキを【作る】> <造形あそび>・ボール・剣にして遊ぶ・制作・環境構成 【つなげ】たり、「折り紙にしたり」、「ボール、バットにしたり」、 焼き芋会でさつまいもを【包む】など 「新聞じゃんけんゲーム」、「増えるしっぽとりゲーム」、「チーム対抗しっぽとりゲーム」 剣とかパンと「音の出る鉄砲を【作る】」 （新聞リレー）1人2枚の新聞を用意して一枚の上に乗って、もう一枚を進行方向に置き そっちに移動。また進行方向に置いて早くゴールした方が勝ち。 <ルールのあるゲームを取り入れていく> 「最後に作った<新聞袋ボールでドッチボール>」 「身につけるものを【作って】遊ぶ 帽子や剣、ステッキなど」
5歳児	「<新聞リュック>を【つくる】」 「ジャンケンし負けたらどんどん小さく折り畳んでいくというゲーム」 「【作って】あそぶ 。かぶとづくり。剣づくり。洋服づくりなど。」 「新聞紙を使ったゲーム」、「秘密基地【作り】」 「ゲーム、ごっこ遊びに使う」 「新聞じゃんけん遊び」、「棒【づくり】、新聞てっぽう」、「はりばて」 複数人で新聞を徐々に【折りたたんで】いき、その上にがんばって【のる】ゲーム <輪投げ【作り】> <新聞一枚を【細くちぎり】、【長さを競う】> <新聞を胸に【貼り付け】【落とさない】ように【競争して】【走る】> <で兜や剣など【製作】> <新聞紙で【製作】> <剣【作り】> <変身ごっこ> 「新聞島ゲーム」や「風船【運び】などの新聞紙を使って遊ぶゲーム」 お家を作るための材料として新聞紙を取り入れたりして遊ぶ 「ジャンケン陣取り」などのゲームや、【折ったり】【切ったり】自由制作をする 「文字探し」、「洋服づくり」 「武器【作り】 衣装【作り】」 「家【作り】、【破って】【長さを競う】遊び」、「輪【投げ】の輪、陣地ジャンケン」 「新聞ジャンケン 陣地とり、腕輪、衣装など」「玉【当て】」 「新聞【乗り】ジャンケン」「新聞【長さ比べ】」「新聞ジャンケン遊び」 「迷路づくり」 新聞紙で【長さくらべ】 大きな折り紙として使う 製作 ミニゲーム 自由製作 導入としてジャンケン列車を取り入れている。 2人でジャンケンをして負けた方が新聞紙を半分に【折る】。それを続けていき新聞紙の 上に立てなくなったら終わり。子ども全体と保育者でジャンケンをするのも楽しい。 「角から【丸めて】剣作り」、「【細く丸め】たものを【組み合わせ】ピラミッド作り 特定の食べ物の形を【丸めたり】【捻ったり】して【形付け】折り紙等を 【糊で貼り】、目的のものを【作成する】。 そこに【トッピング】したり【想像したり】して、<各々好きなように>【作る】。

	また、工作として、いろいろな廃材を【組み合わせ】、1つのものを【作り上げる】。 【折って】洋服を【作り】剣にして「闘いごっこにする」 制作で、新聞を破き【水に浸】し、トロトロに「して 牛乳パックのトロトロと【混ぜて】「紙漉きのような【形にする】」 「ハガキ【づくり】など」 「新聞紙を使った、集団ゲームなど(新聞紙の上に何人【乗れるか】な) どんどん小さく【たたみ】、その上に【乗れるか】な ＜共同制作＞など ＜造形あそび＞・ボール・剣にして遊ぶ・制作・環境構成 3、4歳と同様のあそび、また「張りぼてで帽子【作り】」 ＜廃材遊び＞ 2、3、4歳児クラス同様の遊び以外で (新聞紙でお家作り)＜アイデアなどは自分達で相談をして作り上げていく必要なものがあったら保育者が用意する＞ (新聞紙から【言葉を抜き取る】)＜【言葉遊び】を入れつつ新聞を【見る】ところに視点を変えてみる＞。子ども達も新聞を【見る】ことによって、ここには映画が書いてある！などいろんな発見がある＞ (新聞じゃんけん)2人組で【協力し】、あたまを使って参加できる
--	--

図.7

これらの自由記述をもとに、USERLOCAL 社のテキストマイニングを使用しテキストデータの情報を取り出し可視化した。その結果を以下の図8～12に示す。

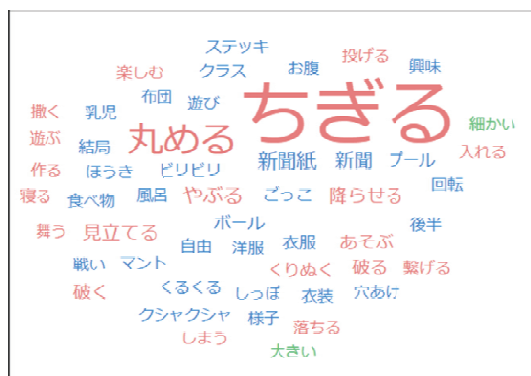


図8. 0・1歳児

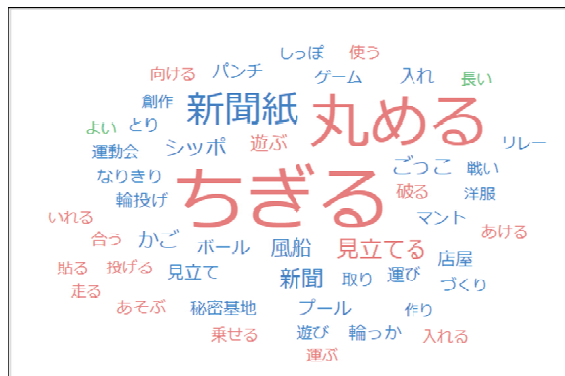


図9. 2歳児

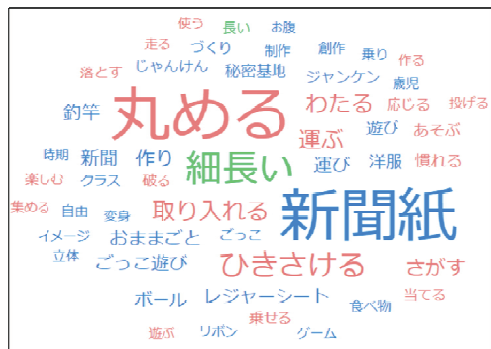


図10. 3歳児

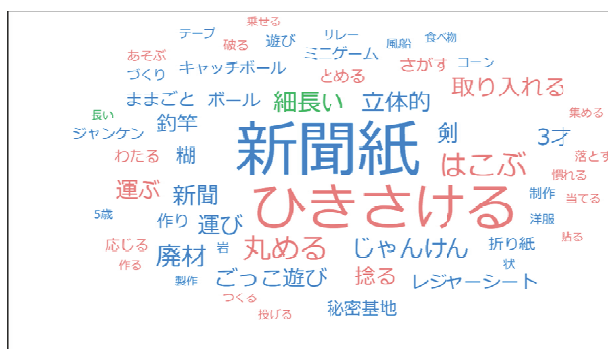


図11. 4歳児

何かになりきる事を新聞紙という素材を使用して行う、言わばごっこ遊びという認識に近い。自身で考えた物になるために、新聞紙を切ったり、貼ったりを行なっていく事で、新聞紙という素材の特性を、着飾りながら学ぶことができる。一つの衣装を作るにも、新聞紙を折るのか、丸めるのかといったように、様々なプロセスを踏まえてイメージするものに近づけていく事ができる。どのプロセスを踏まえようが、間違えのようなものはないが、この自由な工程の中に、製作における工夫や楽しいポイント、自身とは別の第三者の手を借りなくては完成が難しい点などの気づきや、この行動は危険なのではないかといったリスクマネジメントを想定できる機会も数多く点在する。このプロセスの繰り返しにより、新聞紙という素材の特性を深く理解した、良質な学びを介した遊びを展開できる保育者を育成できる機会を与えられるのではないかと考える。このような工程を踏まえ、衣装が完成した後、各々が考える場所で、〇〇ごっこことといった遊びを展開してもらう。

二つ目が、先に紹介した遊びで出た大量の新聞紙を使用した工作になる。元来、新聞紙遊びというものは、遊び終わった後、大量の新聞紙ゴミが出る。捨てるのは簡単だが、ここに何か面白い展開ができないかという発想のもと、次なる工作を考案した。このように捨ててしまう物を魅力ある物に変化させる、アップサイクルをテーマに二つ目の工作を行っている。新聞紙ゴミを製作者自身が好きな形に丸め、それをカラービニールテープで貼っていくだけのシンプルさだが、この中にも様々な学びが詰まっている。このビニール人形を作る際も、ただ丸めただけでは思い通りの形にはならず、ねじったり、重ねたりと、工夫を凝らすことで、思い通りの人形が出来上がる。この工作の良い点は、表面は全てビニールテープで覆うため、内側に新聞紙を詰め込むことにより、ゴミが一切出ないという点だ。自身が出したゴミも全て魅力ある作品にし、何も残さないという心がけを基に製作を行うことにより、子どもたちに対して、自然と環境への配慮が行える保育者を育成できるのではないかと考える。

これら二つの工作を行うことにより、新聞紙への物質的、教育的理解から、処理方法までを理解する保育者を育成し、新聞紙という素材だけでも、多くの可能性を見出し主体的な理解を深めることができるのではないかと考える。



新聞紙ファッションショー製作風景 (1)



新聞紙ファッションショー製作風景 (2)



各々がイメージするキャラクター性を活かしたポーズを撮影



ビニール人形製作風景



ビニール人形作品 1



ビニール人形作品 2



ビニール人形作品 3

5. まとめ

本研究は、保育現場における新聞紙遊びの実際に焦点を当て、新聞紙を使用した遊びの種類から保育者の意図的な「環境構成」と「素材」が「子どもの主体的な遊び」にどのように結びつくかについて整理し考察した。結果、保育者が素材の特徴を理解し、意識して子どもたちに提供していること、さらには保育所保育指針の保育内容と子どもの発達過程

に応じた遊びを考えながら取り入れていることや、子どもが自ら素材にかかわりたくなるような保育の方法や内容も示唆された。よって、新聞紙という素材は、その他多々ある教材や素材同様、またはそれ以上の効果をもたらし、子どもの主体的な遊びを促す効果があると考ええる。

また、「失敗を恐れずに気軽に遊べる」という素材の可能性は、単なる遊びに留まらず大人（保育者や保護者など）との関係性を深めるうえでも価値あるものと考ええる。アンケートの自由記述で「創造力」や「想像力」といった記述がみられたが、子どもの能力を引き出すだけではなく大人にとっても「創造」や「想像」を楽しむきっかけになる素材となりうる。廃材として扱われがちな新聞紙が創造を生み出す点、また失敗を恐れずに何度でも使用できる素材の価値は高い。

2020年に橘が行った新聞紙に関する質問紙調査(一般人115名)では、紙の新聞を購読している家庭が66%で、購読をしていない43%の理由の中に「無駄である」「ゴミになる」という回答が多く見られた。しかしながら、自由記述においては新聞紙の素材の有効性を再認識する回答もあった。「古紙なのでたくさん使える」「子どもを叱らずに済む」という記述も散見した。今回実施の保育者アンケートの自由記述では、新聞紙遊びを行った後の環境構成（片付けなど）の工夫とその課題について提示する保育者もいたことから、酒井が述べるように新聞紙という素材の特性を深く理解し、良質な学びを介した遊びを展開できる保育者を育成できる機会を増やすことも必要であると考ええる。

乳児に対する新聞紙遊びの取り入れ方についてはあまり議論されておらず先行研究もいまだ少ない。ちぎった細かい新聞紙による誤飲を取り上げた看護雑誌にとどまる。今回の自由記述の0歳児の回答の中に、「食べてしまう恐れがあるので取り入れていない」というものもあった。また、「大豆インクによるアレルギー反応を示す乳児もいた」ことから、月齢の低い0歳児およびアレルギーを持つ子どもには配慮が必要であると考ええる。

4歳児以降に出現した「文字遊び（ののじあそび）」は、新聞の文字の中で一番多く使用されている「の」の文字を探すと言う遊びである。幼児期の「文字への関心」から小学生の「記事への関心」に繋がる遊びともいえよう。これは、情報媒体と紙素材が一体化している（図1）新聞紙だからこそできる遊びである。保育者らが関わることで、さらに子どもらの遊びは深まり集中度を増していく。「安全性・廉価性・利便性」を備えた新聞紙の活用にはまだまだ未知の可能性と課題がある。よって、保育者養成校においては、その様々な特性や安全性(2010,東京都)に加えて楽しめるポイントを十分に理解し、子どもたちに遊びのきっかけやヒントを与え、子ども主体の保育が展開できる柔軟性および専門性の教育が必要となるであろう。

今回の調査の回答者は70名であった。今後は母数を増やし、地域や年齢、経験年数などとの相関関係もあきらかにし、結果の精度を高めていきたい。また、戸外での新聞遊びの事例がなかったことなども念頭に入れ、アンケート調査内容の精査および聞き取り調査による具体的な事例調査も増やしていきたい。

引用・参考文献

- ・江刺家由子,滝沢真毅（2015）「幼児への運動遊びの指導－新聞紙を使った活動を例として－」『帯広大学短期大学紀要』,52,pp.11-18.
- ・滝村雅人,野中壽子（2011）「発達障害児への地域での支援」,『名古屋市立大学大学院人間文化研究科人間文化研究』, 16,pp.56-57.
- ・厚生労働省(2018)『保育所保育指針』「第2章子どもの発達,2 発達」過程,保育の内容(オ),表現」
- ・厚生労働省(2017)『国民生活基盤調査』
- ・厚生労働省(2015)『全国ひとり親世帯等調査結果の概要』
- ・文部科学省(2018)『幼稚園教育要領』「第2章ねらいおよび内容,表現」
- ・総務省統計局(2018)『就業構造基本調査』
- ・藤井路子,巨英太郎,渡辺邦博(2011)「新聞購読に関する意識調査」『奈良産業大学紀要』 pp,113-125.
- ・橘和代(2020)「子育て支援の場における新聞紙遊びの提案－親子関係に着目して－」,『有明教育芸術短期大学子ども教育実践センター紀要第2巻』 pp31-42
- ・南谷悠子(2022)「幼児の音とかかわる姿にみる気づきと保育への影響」 鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部 鹿大学教職教育センター紀要 第4号 pp.15-25
- ・USERLOCAL 社のテキストマイニング <https://textmining1.userlocal.jp/home/file>
- ・東京都生活文化局消費生活部（2010）『平成 22 年度 ヒヤリ・ハット調査「誤飲による乳幼児の危険」(インターネットアンケート)』

謝辞

本稿作成に際し、WEB 調査にご協力いただきました保育者の方々に心より感謝いたします。なお、本研究は文部科学省科学研究費（基礎 C 課題番号21K02122）を受けた研究の一部である。

保育者養成における体験型学習による学生の 学習効果に関する一考察

～ 学内子ども参加型イベントでの実践に対するふりかえりレポートから ～

A study on the learning effects of experiential learning in early childcare and education training

～ From the retrospective report on the practice at the on-campus
children's participation type event ～

室井 佑美

MUROI Yumi

はじめに

保育者養成校である本学では、体験型学習を重視して教育課程を編成してきた。特に、1 学年で取り組む地域子育て支援イベントや学内子ども参加型イベントでは、学生が一定の学習成果を示している。^{i, ii} 特に、令和 3 年度から新たに学内子ども参加イベント「Yamamura Juhla Juhla」を学生の体験型学習として始めた。このイベントは、大学キャンパス内に地域の幼稚園、保育園を招待し、子どもが実際にアトラクションに参加し、学生のパフォーマンスや演出を体験する企画となっている。福泉等は、参加した幼稚園、保育園の保育者は一緒に参加した園児に対して、「子どもたちの感情の変化」、「環境や雰囲気理解」、「各場所で担われる役割を考えて子どもが自発的に行動する」という受け止め方をしていること等を明らかにした。ⁱⁱⁱ また、酒井等は、参加した幼稚園、保育園の保育者はマネジメントの視点から「学内施設や設備」「イベントのために設定された環境などの場所」、「時間の設定と展開（タイムマネジメント）」、「ストーリーに基づく子どもが受け取る物的環境や子どもに携わる人的環境」を捉えていることを明らかにした。^{iv} 参加した保育者の観点からこのイベントを捉えることができたが、体験型学習の主体として取り組んできた学生がどのような学びを得たのかを明らかにすることはしていない。学生自身はこのイベントを通して授業内で、Yamamura Juhla Juhla の主旨を理解する、学内の自然環境（地形など）や物的環境（施設や設備など）を把握する、テーマに基づいたアトラクションやアテンダント内容を計画する、役割分担されたアトラクションやアテンダントの物的環境を構成する、当日の役割分担と人的配置を決める、プレビューでの実践を評価する、当日に向けて改善して改めて実践を行う、使用物品の片づけをするなどした。このような企画・運営、実践などの体験型学習を通して、将来保育者になるにあたっての保育現場における学生自身の資質・能力の向上や、PDCA サイクルに基づいたマネジメントの理解につながるのではないかと筆者は考えた。また、大学教育の

中で求められる学力の三要素^Vの醸成に対して、学生が実感した学びの要素を具体的に明らかにすることができるのではないかと考えた。よって、学生にとって具体的にどのような意味、意義があるのかを検証する必要があると考え、本研究に至った。

1. 研究の目的

本研究では、学内子ども参加型イベントで学生が体験したことに対する意義に焦点を当て、学生が捉えた意義の内容を検討することを通して、学生の学習効果を明らかにすることを目的とする。そのため、学内子ども参加型イベントでの実践に対するふりかえりレポートの記述を用いてデータ分析をすることを通して、学生にとっての学習効果を評価することとする。

2. 研究の方法

(1) 調査の概要

1) 調査の対象

対象は、令和4年度後期開講の「保育内容人間関係の指導法」の受講生であり、Yamamura Juhla Juhlaの企画、実践をした1年生67名とした。

有効回答数は61名、有効回収率は91.0%であった。

2) 調査の方法と日時

調査は、Yamamura Juhla Juhlaに対するふりかえりのレポートを作成することを通して行った。イベント終了後の翌週にあたる令和4年11月21日(月)、22日(火)の授業内でより具体的で正確な振り返りを促すため、静止画及び動画の視聴後に行った。ふりかえりレポートでは、Yamamura Juhla Juhlaの①準備・計画を通して学んだこと気づいたこと、②実践を通して、子どもの参加する姿や発する言葉、子どもに対応した時の子どもの反応から気付いたことや考えたこと、③大学内で子どもを招待してYamamura Juhla Juhlaをすることに対する意味、意義(「学生にとって」「子ども(園)にとって」)、の3点についてそれぞれ自由に記述を求めた。

3) 調査への倫理的配慮

ふりかえりレポートの作成と提出にあたって、本研究の目的と内容を伝え、協力者の個人名が第三者に特定されないことがないこと、本研究への参加は自由意志であり拒否における不利益はないこと等を口頭で説明し、同意を得た。加えて、研究結果を大学紀要として発表することについて説明して同意を得るなど、各調査対象者に倫理的な配慮を講じた。

(2) 調査の分析方法

本研究では、学内子ども参加型イベントで学生が体験したことに対する意義に焦点を

当て、学生が捉えた意義の内容を検討することから、③大学内で子どもを招待して Yamamura Juhla Juhla をすることに対する学生にとっての意味、意義の自由記述をデータとして用いて、オープンコーディングの手法を用いて分析を行うこととした。^{vi}

3. 調査結果

学生自身はこのイベントにおいて、授業内で企画・運営、実践などの学びを実際に体験することで、将来保育者になるにあたっての保育現場における学生自身の資質・能力の向上や、園行事等におけるPDCAサイクルに基づいたマネジメントの理解につながるのではないかと筆者は考える。そこで学内子ども参加型イベントで学生が体験したことに対する意義を把握することとした。その上で、大学教育の中で学生に対して求められる学力の三要素と照らし合わせ、学生が実感した学びの要素を具体的に明らかにしたい。

自由記述から、①知識・技能の学習要素、②思考力・判断力・表現力の学習要素、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度に対する学習要素について読み取れる159コードを抽出し、それぞれの内容に分けた。データ分析では、一連の分析を行い、保育内容の指導法を教授している教員にも分析結果を確認し、専門的知識に基づいて議論しながら、信頼性と妥当性を高めるような努力をした。コアカテゴリー【 】, カテゴリー《 》、サブカテゴリー〔 〕と分け、最終的に集約できたカテゴリーは表1、表2、表3の通りである。

①知識・技能の学習要素は表1である。53のサブカテゴリーから15カテゴリーを抽出し、さらに【知る・気づく】、【できる】、【分かる・理解する】の3のコアカテゴリーに集約することができると思う。

②思考力・判断力・表現力の学習要素は表2である。50のサブカテゴリーから16カテゴリーを抽出し、さらに【考える】、【活かす・試す】、【作り上げる】、【身につく】の4のコアカテゴリーに集約することができると思う。

③主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度に対する学習要素は表3である。33のサブカテゴリーから9カテゴリーを抽出し、さらに【意欲の向上】、【人との関係性】、【達成感・自己の成長】の3のコアカテゴリーに集約することができると思う。

4. 考察

調査結果から抽出されたカテゴリーから学習要素の意味づけについて考察する。そこで、まず、過去の中央教育審議会等の答申にて示されている「教師に求められる資質能力」に関する記述^{vii}を表4の通り示す。

これらの答申を示した理由として、今回、学内子ども参加型イベントの企画・運営を進めた科目が保育内容の指導法であったことから、調査結果の考察に関しても、幼稚園教諭として求められる資質・能力を参考に、内容が共通すると思われるものについてま

表 1：知識・技能の学習要素

コアカテゴリー	カテゴリー	サブカテゴリー
知る・気づく	子どもの興味・関心や感情	子どもの感情の出し方の特徴
		子どもが持っている興味
		子どもたちが好きなこと
		子どもが楽しいと思う出来事やタイミング
		イベントごとに保育者が行う作業
	保育者が行う作業・援助	園外で子どもたちに対して保育者が行う声掛け
		子どもに喜ばれる対応の仕方
		子どもが喜ぶ声掛け
	子どもの心性を意識する言動	子どもが喜ぶような接し方
		子どもが理解できる伝え方や説明する時の言葉
		園外での子どもたちの集団の動き
	子どもの発達を意識する言動	子どもの安全を考えた行動
		子どもにとって難しい活動や内容
		子どもに適切な安全面
	子どもの特性を意識する方法	子どもたちの健康面
		子どもたちの活動に対する取り組み姿
知る・気づく	学習主体者の作業・環境の活用	テーマに基づいた造形、装飾
		準備や計画時の注意点や大切なこと
		大学が子どもから大人まで使える場
		大学内にある危険箇所
できる	子どもや保育者の実際の姿の観察	一人ひとりの発達年齢に伴う行動
		子どもの率直な考え方や感じ方
		子どもの反応
		保育者の援助や声掛けなどの行動
	学習主体者としての意識した姿勢	自分の落ち着いた(慣れた)環境で子どもたちをもてなす
		自分がホストとして子どもに関わり接する
		子どもへ意識した声掛けや適切な振る舞いをする
		準備や対応する時に相手側を想う
		安全面の配慮や危険性の回避を想定し意識する
	学習主体者が意図的に対応したことへの子どもの反応の観察	学内の自然を生かした表現を行う
		自分達が作ったものへの子どもたちの反応
		自分達が考えた言葉への子どもたちの反応
		活動の内容への子どもの表情
分かる・理解する	子どもの思考と言動の理解	子どもの考え
		子どもの行動の仕方
		子ども同士の会話
	園外での保護者の援助	子どもたちの行動を見守る時の指導法
		園外へ行ったときの保育者としての対応
		保育者が行う声掛け
	子どもを慮った学内環境の危険性	子ども目線で見た危険
		大学内にある小さな危険だと思うこと
	学習主体者の実践の実際	子どもとの関わり、接し方
		実習で学んだことの復習
		子どもへの細やかな、分かりやすい言葉や声掛け
		子どもとの関わるための身体表現
	学習主体者の評価の視点	子どもが喜ぶ、楽しむ活動
		子どもが興味をぶさない活動
		子どもが意欲を示すポイント
		子どもの育ちにつながるような活動に取り組む
		行事での4・5歳児の心身の発達
	社会生活に必要なスキル	自分達で制作した内容の発達視点での相応しき
		期間内に計画的に物を作る
		前もってやらなければならないことを把握する

表2：思考力・判断力・表現力の学習要素

コアカテゴリー	カテゴリー	サブカテゴリー
考える	企画の前提	子どもたちの目線
		子ども主体で、子どもたちを第一に
		保育者の立場になって
		保育者としての言動も
	企画の内容・方法を検討する観点	子どもの安全
		子どもの楽しい、喜び等の感情
		企画の世界観・雰囲気に入っていけるようなもてなし
		普段使っている、知っている環境の活用
		物的環境の構成
		子どもが分かりやすい
	企画の実践中に捉えるべき観点	想定外の危険の発見と安全対策
		子どもと自分達との感性の違い
		自分の感覚と子どもの身体性
		気を付けるべき安全面
		子どもの反応に対する評価と改善
		自らの反省を捉え向き合う
		タイムマネジメント
		新しい環境での子どもの姿の実際
	プロセス	自分達が一から
活かす・試す	子どもに合わせた自らの実践	子どもたちの目線になる
		分かりやすい配慮とその範囲を考える
		物で伝える方法を考えて
	主体的に子どもへ投げかける	子どもに対する気遣い
		子どもに対しての表現
		子どもに対する声掛け
	自発的な判断と行動	自分で考え応用して使う
		自分の考えたことを誰かに伝えたい意欲から行動する
	実践後の評価・改善と再実践	出し物の反省点を活かす
		予想外の子どもの動きに臨機応変に対応する
	実践するための自身の情緒の安定	緊張することなく自分らしく
		慣れた環境でスムーズに
作り上げる	子ども主体を中心に置く	子どもが楽しめる空間作り
		子どもの反応や様子を想像する
		子どもに気を付けることを明らかにする
		子どもが楽しみ、世界に入り込める計画を立てる
	自分事として取り組む	音楽、造形、身体表現すべてを使い、子どもに伝える
		学生中心に製作やセリフを計画する
		配役をし、衣装を作る
		素材を集め、小道具・大道具を工夫して形にする
	プロセス	自分達が一から決め、作る
		立案から実践まで一貫して経験する
身につく	働きかける	指導力
		表現力
	生み出す	普段使う場所とは異なる新しい世界を創る
		普段とは異なる使い方をする時の動きを創る
		子どもの前で、臨機応変に対応する度胸
		自分達が主体となって対処する責任感
	組み立てる	計画力
		想像と違う反応と見方
	新しい知恵を得る	保育者とは異なるホスピタリティや気づき

表3：主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度に対する学習要素

コアカテゴリー	カテゴリー	サブカテゴリー
意欲の向上	大学での学び	実習を頑張ろう
		学んだことを活かして実習につなげよう
		責任実習の練習につながる
		子どもに対するより一層の関心が深まる
		実習ではできないことがたくさんできる
	保育者としての自覚	保育者になりたい気持ち
		保育者になりきる練習と経験
		行事での保育者の立ち回りの糧として生かす
		保育者が行う製作活動で活かす
	将来に向けた漠然としたやる気	慣れた場所で、安定した情緒で仕事に臨む
		今後のモチベーションの向上につながる
		来年にも活かせる
人との関係性	一人ひとりの尊重	これからのことに意欲が湧く
		一人ひとりの成長を大切にする
		一人ひとりが価値を大切にする
	目的のためにまとまる	一人ひとりがヨーフラに関わる
		何日間もかけた準備で団結力が生まれる
		一丸になって、試行錯誤して完成させる
	仲間と協力する	絆が深まる
		仲間の活動を知る
		互いの意見を取り入れる
	仲間と分かり合う	学生同士で意見を出し合う
		協調性を持って作り上げる
		子どもの表情から気持ちを仲間と共感する
達成感・自己の成長	達成感	新しい気づきや発見を共有し合う
		やって良かった
		頑張って良かった
	自己の成長	やりがいを感じる
		様々な経験をしてイベントを作り上げた自信
		他の学生の姿を自分事として考え、改善策を考える
		積極的な行動する経験値
		様々なことに挑戦する
		PDCA サイクルを使い時間をかけて準備する

とめていくことで、学生が実感した学びの要素が具体的に明らかになると考えたからである。

それらの記述から、特にいつの時代にも教師に求められる資質・能力の具体的内容は、【対象者の理解】、【実践的指導力】、【専門的知識】、【新しい課題に対応できる知識・技能】、【改善】、【多様な連携・協働】、【情報活用能力】、【自ら学び続ける】、【使命感、責任感、誇り】、【愛情】、【コミュニケーション、ファシリテーション能力】、【豊かな人間性】が示されており、3つの学習要素と内容が共通すると考え、まとめたものが表5である。

【対象者の理解】については、カテゴリーの「子どもの興味・関心や感情」、「子どもの思考と言動の理解」及び「企画の前提」、「子ども主体を中心に置く」は、学生自身が招待されて来学する子どもを対象者とし、それらを前提に理解しようとしていることが対応していると考え。同様に、子どもと共に来学する保育者に対しても対象者と

表4：過去の中教審等答申での「教師に求められる資質能力に関する記述」

「新たな時代に向けた教員養成の改善方策」についての概要	平成9年7月28日	教育教員養成審議会 第1次答申
1. いつの時代にも求められる資質能力 教員としての使命感、人間の成長・発達についての深い理解、幼児・児童・生徒に対する教育的愛情、教科等に関する専門的知識、広く豊かな教養、これらを基盤とした実践的指導力等 2. 今後特に求められる資質能力 ・地球的視野に立つて行動するための資質能力(地球、国家、人間等に関する適切な理解、豊かな人間性、国際社会で必要とされる基本的資質能力) ・変化の時代を生きる社会人に求められる資質能力(課題探求能力等に関わるもの、人間関係に関わる物、社会の変化に適応するための知識及び技術) ・教員の職務から必然的に求められる資質能力(幼児・児童・生徒や教育の在り方に関する適切な理解、教職に対する愛着誇り、一体感、教科指導、生徒指導等のための知識、技能及び態度) 3. 得意分野を持つ個性豊かな教員 画一的な教員像を求めることは避け、生涯に渡り資質能力の向上を図るという前提に立って、全教員に共通に求められる基礎的・基本的な資質能力を確保するとともに、積極的に各個人の得意分野づくりや個性を伸ばすことが大切であるということ		
新しい時代の連携教育を創造する(答申)	平成17年10月26日	中央教育審議会
1. 教職に対する強い情熱 教師の仕事に対する使命感や誇り、子どもに対する愛情や責任感などである。教師は、変化の著しい社会や学校、子どもたちに適切に対応するため、常に学び続ける向上心を持つことも大切である。 2. 教育の専門家としての確かな力量 「教師は授業で勝負する」と言われるように、この力量が「教育のプロ」のプロたる所以である。この力量は、具体的には子ども理解力、児童・生徒指導力、集団指導の力、学級づくりの力、学習指導・授業づくりの力、教材解釈の力などからなるものと言える。 3. 総合的な人間力 教師には、子どもたちの人格形成に関わる物として、豊かな人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法をはじめ対人関係能力、コミュニケーション能力などの人格的資質を備えていることが求められる。また、教師は、他の教師や事務職員、栄養教員など、教職員全体と同僚として協力していくことが大切である。		
教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について(答申)	平成24年8月28日	中央教育審議会
(i) 教職に対する責任感、探求力、教職全体を通じて自主的に学び続ける力(使命感や責任感、教育的愛情)		
(ii) 専門職としての高度な知識・技能 ・教科や教職に関する高度な専門的知識(グローバル化、情報化、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む) ・教科や教職に関する高度な専門的知識(グローバル化、情報化、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む) 新たな学びを展開できる実践的指導力(基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題探求型の学習、協働的学びなどをデザインできる指導力) ・教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる力		
(iii) 総合的な人間力(豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力)		
これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～(答申)	平成27年12月21日	中央教育審議会
・これまで教員として不易とされてきた資質能力に加えて、自律的に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を生涯に渡って高めていくことのできる力や、情報を適切に収集し、選択し、活用する能力や知識を有機的に結びつけ構造化する力などが必要である。 ・アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、道徳教育の充実、小学校における外国語教育の早期化・教科化、ICTの活用、発達障害を含む特別な支援を必要とする児童生徒等への対応などの新たな課題に対応できる力量を高める必要がある。 ・「チーム学校」の考えの下、多様な専門性を持つ人材と効果的な連携・分担し、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む力の醸成が必要である。		
幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)	平成28年12月21日	中央教育審議会
・これからの教員には、学級経営や児童生徒理解等に必要の力に加え、教科等を越えた「カリキュラム・マネジメント」の実現や、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善や教材研究、学校評価の改善・充実などに必要な力等が求められる。 ・教員養成においては、資質・能力を育成していくという新しい学習指導要領等の考え方を十分に踏まえ、教職課程における指導内容や方法の見直しを図ることが必要である。		
「令和の日本型教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現(答申)	令和3年1月26日	中央教育審議会
2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型教育の姿」教職員の姿 ・教師が技術の発達や新たなニーズなど学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探求心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている。その際、子供の主体的な学びを支援する伴奏者としての能力も備えている。 ・教員養成、採用、免許制度も含めた方策を通じ、多様な人材の教育界内外からの確保や教師の資質・能力の向上により、質の高い教職員集団が実現されるとともに、教師と、総務・財務等に通じ専門職である事務職員、それぞれの分野や組織運営等に専門性を有する多様な外部人材や専門スタッフ等とがチームとなり、個々の教職員がチームの一員として組織的・協働的に取り組む力を発揮しつつ、校長のリーダーシップのもと、家庭や地域社会と連携しながら、共通の学校教育目標に向かって学校が運営されている。 ・さらに、学校における働き方改革の実現や教職の魅力発信、新時代の学びを支える環境整備により、教師が創造的で魅力ある仕事であることが再認識され、教師を日指そうとする者が増加し、教師自身も指揮を高め、誇りをもって働くことができる。		
Society5.0時代における教師及び教職員組織の在り方 基本的な考え方 ・教師に求められる資質・能力は、これまでの答申等にも繰り返し提言されてきたところであり、例えば、使命感や責任感、教育的愛情、強化や教職に関する専門的知識、実践的指導力、総合的な人間力、コミュニケーション能力、ファシリテーション能力などが挙げられている。 ・AIやロボティクス、ビッグデータ、IoTといった技術が発展したSociety5.0時代の到来に対応し、教師の情報活用能力、データリテラシーの向上が一層重要になってくると考えられる。 ・教師や学校は、変化を前向きに受け止め、求められる知識・技能を意識し、継続的に新しい知識・技能を学び続けていくことが必要であり、教職大学院が新たな教育課題や最新の教育改革の動向に対応できる実践力を育成する役割を担うことも大いに期待される。 ・多様な知識・経験を持つ人材との連携を強化し、そういった人材を取り込むことで、社会のニーズに対応しつつ、高い教育力を持つ組織となることが必要である。		

して捉え、「保育者が行う作業・援助」を通して理解しようとしていると考える。

【実践的指導力】は、「子どもの心性を意識する言動」、「子どもの発達を意識する言動」、「子どもの特性を意識した方法」、「子どもや保育者の実際の姿を観察」することを学生自身が知識・技能として捉えられ、対応すると考える。また、「企画の実践中に捉える観点」、「子どもに合わせた自らの実践」、「主体的に子どもへ投げかける」という自らの意図的な実践とそれら「働きかける」、「組み立てる」ことを学習していると捉え、対応していると考え。

【専門的知識】は、「子どもを慮った学内環境の危険性」や「企画の内容・方法を検討する観点」は、子どもの発達とリスクを専門的な知識として捉え、それらを企画の実践へ反映していこうとしていることから対応すると考える。同様に、「園外での保育者の援助」も園外で行う援助という特別な状況での援助は保育者として専門的知識が必要であると捉えているであろうと推察されることから対応すると考える。

【評価・改善】は、「学習主体者が意図的に対応したことへの子どもの反応の観察」は、自ら考えたことを行い、その反応を捉えるという評価の実践を学び、「学習主体者の評価の視点」を具体化していることと対応していると考え。その上で「実践後の評価・改善と再実践」をPDCAサイクルを実際に体験することと対応していると考え。

【使命感、誇り、責任感、愛情】については、「学習主体者として意識した姿勢」、「自発的な判断と行動」、「自分事として取り組む」ことが学生が使命感を学習していることと対応し、「保育者としての自覚」、「社会生活に必要なスキル」、「将来に向けた漠然としたやる気」は、学生が責任感を捉えて当日のイベントを実践したことで「達成感」を味わったことと対応していると考え。

【多様な連携・協働】は、学生同士で「目的のためにまとまる」、「仲間と協力する」ことを実感したことと対応していると考え。

【自ら学び続ける】ことは、イベントのテーマに基づいて当日の実践まで取り組む「プロセス」や経験したすべてを「大学での学び」として捉えられ、対応していると考え。

【探求心】は、様々なことを創造して「生み出す」ことをし、「自己の成長」として捉えていることから対応していると考え。

また、【新しい課題に対応できる知識・技能】は、「新しい知恵を得る」ことから、

【情報活用能力】は、「学習主体者の作業・環境の活用」から、【コミュニケーション、ファシリテーション】は、「仲間と分かり合う」ことから、【豊かな人間性】は、「一人ひとりの尊重」をすることから対応していると考え。

表 5：教師に求められる資質・能力の具体的な内容的内容に対するの 3 つの学習要素との共通内容

教師の求められる資質能力	知識・技能の学習要素(表1)	思考力・判断力・表現力の学習要素(表2)	主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度に対する学習要素(表3)
【対象者の理解】	子どもの興味・関心や感情	企画の前提	
	保育者が行う作業・援助	子ども主体を中心に置く	
	子どもの思考と言動の理解		
【実践的指導力】	子どもの心性を意識する言動	企画の実践中に捉えるべき観点	
	子どもの発達を意識する言動	子どもに合わせた自らの実践	
	子どもの特性を意識する方法	主体的に子どもへ投げかける	
	子どもや保育者の実際の姿の観察	働きかける	
	学習主体者の実践の実際	組み立てる	
	子どもを慮った学内環境の危険性 園外での保育者の援助	企画の内容・方法を検討する観点	
【専門的知識】			
【評価・改善】	学習主体者が意図的に対応したことへの 子どもの反応の観察	実践後の評価・改善と再実践	
	学習主体者の評価の視点		
【新しい課題に対応できる知識・技能】		新しい知恵を得る	
【多様な連携・協働】			目的のためにまとまる
			仲間と協力する
【情報活用能力】	学習主体者の作業・環境の活用		
【自ら学び続ける】		プロセス	大学での学び
【使命感、誇り、責任感、愛情】	学習主体者としての意識した姿勢	自発的な判断と行動	保育者としての自覚
	社会生活で必要なスキル	自分事として取り組む	将来に向けた漠然としたやる気
			達成感
【探求心】		生み出す	自己の成長
【コミュニケーション、フアシリテーション】			仲間と分かち合う
【豊かな人間性】			一人ひとりの尊重

本調査の結果にて集約された3つの学習要素は、過去の答申等で示された教師の求められる資質能力との一致が見られた。よって、学内子ども参加型イベントで学生が体験したことに対する意義を把握することは、学生が実感した学びの要素が大学教育の中で学生に対して求められる学力の三要素において、教師の求められる資質能力と対応する要素であることが示唆されたといえよう。

5. 結論

本研究では、学内子ども参加型イベントで学生が体験したことに対する意義に焦点を当て、学生が捉えた意義の内容を検討することを通して、学生の学習効果の具体性を、学力の三要素から明らかにした。また、それらを教師に求められる資質能力に照らし合わせると、体験型学習を通して求められる力を醸成する一助となるような具体的な効果があることを把握することができた。

おわりに

本研究は、学内子ども参加型イベントという一つの取り組みから研究したが、それらの学びが大学在籍中に学生自身の実際の態度としてどのような言動で表れていくかを示すことはできていない。また、自由記述に留まっており、学生自身に面接調査をして、さらなる妥当性を高めるには至っていない。そこで、体験型学習の有用性について研究を進めていく必要があると考える。

脚注・注釈・参考文献

-
- i 室井佑美,『保育者養成における体験的学習による学習成果と展望—教材「七夕まつり」の教育内容と実践課程に視点をあてて—』,山村学園短期大学紀要第26号,2016
 - ii 室井佑美・鴨志田加奈,『地域子育て支援イベントでの保育実践による学生の学習効果に関する一考察—はとやま子育てフェスティバル「山村にんにん忍者塾」のふりかえりレポートから—』,山村学園短期大学紀要第29号,2019
 - iii 福泉博子・酒井誠・楠原竜也・室井佑美,『学内子ども参加型イベント「Yamamura Juhla Juhla」に対する子どもたちの受け止め方について(1) —ストーリーに対する保育者の視点から—』,山村学園短期大学紀要第32号,2022
 - iv 酒井誠・室井佑美・楠原竜也・福泉博子,『学内子ども参加型イベント「Yamamura Juhla Juhla」に対する子どもたちの受け止め方について(2) —イベントのマネジメントに対する保育者の視点から—』,山村学園短期大学紀要第32号,2022
 - v 中央教育審議会「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学選抜の一体的改革について～全ての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために～(答申)」(平成26年12月22)
 - vi オープンコーティングは、ストラウスとグレイザーによって開発された。具体的なテキストを「切片化」し、区切った内容に「ラベル」を付ける作業である。

- vii 中央教育審議会,「教師に求められる資質能力の再整理について」,「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会(第3回)・教員免許更新制小委員会(第4回)資料,2022
- viii 保育内容の指導法は、教育職員免許法及び同施行規則に基づいた教育課程で共通的に習得すべき資質能力を示すものであり、領域及び保育内容の指導法に関する科目に位置づいている。

よしみけやき保育所体操
『へんしんからだあそび バビブベボッ！』の創作過程報告
— 令和4年度武蔵丘短期大学・山村学園短期大学共同研究より —

Yoshimi Keyakinurserygymnastics
"HenshinKaradaAsobi Ba-Bi-Bu-Be-Bo!"
Creation process report
— From Musashigaoka College and Yamamura Gakuen
Collegejoint research in 2022 —

楠原 竜也

KUSUHARA Tatsuya

I はじめに

今回、「令和4年度武蔵丘短期大学・山村学園短期大学共同研究『よしみけやき保育所体操』創作」において、筆者は動きづくりを中心に担当することとなった。筆者は、十数年来、ファシリテーターとして、子どもたちへ身体表現ワークショップを行ってきた。そのなかでは、子どもたち自身がアイデアを出しながら、さまざまなかたちや動きを生み出してあそぶこと、さらには、友だちと一緒に身体で関わってあそぶことを特に大切にしてきた。

本研究の目的は「幼児の運動能力の向上に役立てる保育所オリジナルの体操を、子どもの苦手な動きを取り入れて創作すること」である。本研究の目的の達成に向け、文部科学省『幼児期運動指針ガイドブック』1)の『幼児期運動指針』2)のポイント（「多様な動きが経験できるように様々な遊びを取り入れること」「楽しく体を動かす時間を確保すること」「発達の特性に合った遊びを提供すること」）を参考にしつつ、筆者の身体表現ワークショップの特徴を活かした体操の完成に向けて、創作を開始した。

本稿では、筆者が担当した動きづくりと音楽を中心に、よしみけやき保育所体操『へんしんからだあそび バビブベボッ！』の創作過程を報告する。

II 令和4年度武蔵丘短期大学・山村学園短期大学共同研究について

1. 本研究の目的と背景

本研究の目的は、吉見町立よしみけやき保育所開所10周年を記念した、幼児の運動能力の向上に役立てる保育所オリジナルの体操を、子どもの苦手な動きを取り入れて創作することである。

埼玉県比企郡吉見町の唯一の公立保育所「よしみけやき保育所」は、令和3年10月に設立10周年を迎えた。この間、平成29年度から町内にある武蔵丘短期大学を拠点とするNPO法人武蔵丘スポーツクラブへの委託事業として、毎年2月に4歳児と5歳児の幼児の運動能力測定を定期的実施して、保護者や園関係者にその結果を還元し、同時に武蔵丘短期大学教員や学生による運動指導を保育時間に取り入れてきた。そのような経緯を踏まえ、設立10周年を機に、幼児の運動能力の向上に役立てる保育所独自の健康体操を創作することになった。

そこで、健康生活学科を設置する武蔵丘短期大学（吉見町）の教員が、運動・動作解析を中心に担当し、子ども学科を設置する山村学園短期大学（鳩山町）の教員が、動きづくり・音楽を中心に担当し、両短期大学の特性を活かして共同研究をすることとなった。

2. 本研究の概要

本研究の概要は、以下の通りである（表1）。

表1 本研究の概要

研究テーマ	「よしみけやき保育所体操」創作
研究目的	吉見町立よしみけやき保育所開所10周年を記念した、幼児の運動能力の向上に役立てる保育所オリジナルの体操を、子どもの苦手な動きを取り入れて創作すること
研究方法	①幼児の運動解析により「苦手な動き」を抽出する。 （よしみけやき保育所令和4年度前期運動能力テスト結果、ならびに、幼児の日常の運動あそびの様子を動画撮影して、ソフトを用いて動作解析を行ない、苦手な動きを抽出。） ②幼児の苦手な動きを含んだ保育所体操を創作する。 ③できあがった動きに創作音楽をつけて独自の体操に仕上げる。
研究対象	吉見町立よしみけやき保育所（主に5歳児）
研究実施期間	令和4年9月1日（木）～令和5年3月31日（金）
研究メンバー（ ）内は、主な担当	武蔵丘短期大学：太田あや子（代表者・研究監修者）・伊藤えつ子（動きづくり）・辻将也（動作解析）・島田里緒菜（動作解析・撮影）・鴻野周史（事務） 山村学園短期大学：福泉博子（音楽）・楠原竜也（動きづくり）・山崎昌子（事務）

3. 本研究の研究計画

本研究の主な研究計画は、以下の通りである（表2）。

表2 本研究の主な研究計画

研究計画	内容
令和4年8月	第1回打ち合わせ
令和4年9月	共同研究契約書作成と取り交わし 第1回実地調査（よしみけやき保育所視察、運動能力測定結果検討） 第2回打ち合わせ
令和4年10月	運動遊び教室の実施と撮影
令和4年11月	動きの解析と苦手な動きの抽出
令和4年12月～令和5年2月	体操に取り入れる動きの創作 音楽の制作
令和5年3月	体操の完成と納品

Ⅲ よしみけやき保育所体操『へんしんからだあそび バビブベポッ！』の創作過程

1. 本体操の創作について

筆者は、共同研究者である武蔵丘短期大学の太田らの行なった、表1の研究方法、①幼児の運動解析により「苦手な動き」の抽出によるデータをもとに、②幼児の苦手な動きを含んだ保育所体操を創作することと、③できあがった動きに創作音楽をつけて独自の体操に仕上げることを中心に行なった。創作には、筆者の身体表現ワークショップのさまざまな現場でアシスタントを担っているこんどうと井上に、主に振付補として関わってもらった。

2. 本体操の概要

本体操の概要は、以下の通りである（表3）。

表3 本体操の概要

体操タイトル	よしみけやき保育所体操『へんしんからだあそび バビブベポッ！』
体操テーマ	さまざまな動きを経験することのできる体操
令和4年9月	共同研究契約書作成と取り交わし 第1回実地調査（よしみけやき保育所視察、運動能力測定結果検討） 第2回打ち合わせ
創作上の留意点	①子どもたちの現状（運動能力と身体表現への興味関心）を踏まえた動きを取り入れること。 ②子どもたちが動きとイメージを結びつけやすくなる言葉（オノマトペ等）も取り入れること。 ③子どもたちがペアになって友だちと関わる動きも取り入れること。 ④子どもたちと保育者が覚えやすいこと。 ⑤なによりも子どもたちと保育者が楽しめること。
創作方法	①幼児の運動解析による「苦手な動き」の抽出データ（主に、よしみけやき保育所令和4年度前期運動能力テスト結果）をもとに、体操の基本となる動きやリズム等を創作。創作の動画、詞・曲の音源、振付図解、構成表、経過報告書等を随時共有。（楠原、こんどう、井上） ②動画等を確認。気になる部分等について意見や指摘。（太田、伊藤） ③動画等を確認。基本となる動きやリズム等を活かした音楽を作曲、随時共有。（福泉）
創作場所	山村学園短期大学、武蔵丘短期大学、よしみけやき保育所、都内公共施設ほか
創作期間	令和4年12月～令和5年3月
創作担当 ＜クレジット／ 役割＞ （ ）内は、 所属や職業等	構成・振付・作詞・作曲：楠原竜也（山村学園短期大学） 作曲・編曲：福泉博子（山村学園短期大学） 振付補・イラスト：こんどうりえ（ダンサー） 振付補・図解作成：井上知優（俳優） アドバイザー：太田あや子（武蔵丘短期大学） 伊藤えつ子（武蔵丘短期大学） 音楽協力：有吉拓（ドラマー）

3. 創作を始めるにあたって（表3創作上の留意点参照）

本研究の目的である「幼児の運動能力の向上に役立てること」を前提に、「さまざまな動きを経験することのできる体操」をテーマにあげた。そして、創作する上で大切にしたいこととして、創作上の留意点を5つあげた（表3）。

留意点をあげた理由の一つは、筆者ら（楠原、こんどう、井上）が、創作に向けてのリサーチワークショップを実施した際に、子どもたちの実態（発達の段階、個々の表現、

身体表現への興味関心等）を多少なりとも把握できたからである。具体的には、令和4年度前期運動能力テスト結果が全国平均に比べて低いことは認識していたが、実際にワークショップを行なう限りでは、とにかくいずれの子どもたちも思いっきり全身で身体表現を楽しんでいて、そのようなことを全く感じさせなかったこと。また、動きだけでなく、筆者が発する言葉をまねるときは、声を出して笑いながら楽しんでいたこと。そして、自分で考えて創作する内容では、迷いなく自信を持って表現する子どもたちが多かったこと。さらには、二人組で行なう内容では、友だちと一緒に動いたり、表現したりすることをとても楽しんでいたことを把握できた。

もう一つの理由としては、筆者がこれまで十数年来、子どもたちとの身体表現ワークショップの実践で大切にしてきたことを踏まえたからである。それは、子どもたち自身がアイデアを出しながら、さまざまなかたちや動きを生み出してあそぶこと。そして、友だちと一緒に身体で関わってあそぶことであった。

筆者らは、このような考えのもと、創作上の留意点をあげて体操の創作を開始した。

4. 体操タイトル

【第1回体操創作】直後にいくつか候補を思い付く。最終的には【第4回体操創作】を経て、よしみけやき保育所体操『へんしんからだあそび バビブベボッ!』に決定する。

タイトルに、「たいそう」ではなく「からだあそび」という言葉を入れた理由は、創作開始当初から、体操の基本のかたち（振付）はありながらも、子どもたち一人ひとりのアイデアが即興的に取り入れられる部分のある、遊び心ある体操にしたいという想いがあったからである。また、最終的にそのような部分「トンネル」を含めることができたため、「からだあそび」を含めたタイトルを命名した。「へんしん」は、その名の通り、さまざまに身体のかたちや動きを変身させて遊ぶため。そして、「バビブベボッ!」は、【創作に向けてのリサーチワークショップ】の「まね（筆者の動きや声を次々とまねしていくウォーミングアップ。）」の際に、筆者が行なった「バビブベボッ!」の言葉と動きへの子どもたちの反応の良さから、本体操を象徴する動きであると筆者が実感したため、タイトルに含めることにした。

5. 創作過程（資料3、4参照）

【創作に向けてのリサーチワークショップ】 日時：令和4年12月20日（火）

場所：よしみけやき保育所

（出席者：楠原、こんどう、井上、保育所職員8名、5歳児36名）

筆者ら（楠原、こんどう、井上）が、5歳児クラスの子どもたちと身体表現活動をししながら、子どもたちの実態を把握し創作の手掛かりとするため、また、子どもたちと関係を築いていくために実施した。クラス別、各45分。身体表現ワークショップの内容は

「身体をめいっぱい使い、友だちと関わって動くことを楽しみながら、自分自分の表現や友だちとのコミュニケーションを発見・体験すること」をねらいとして考案した。

具体的な内容としては、「まね（筆者の動きや声を次々とまねしていくウォーミングアップ。）」「トンネル（2人組で片方が身体でさまざまなかたちのトンネルをつくり、もう片方がそのトンネルを次々とくぐる。）」「何本足（筆者の提示した数だけ身体のどこかを床にくっつけてかたちをつくる。次に、さまざまな動きで移動していく。）」を行なった（図1～3）。今回実施したワークショップの内容への子どもたちと保育士の関心の高さを踏まえて、体操には今回行なった動きやあそびを発展させて取り入れることを検討した。



図1 ワークショップの様子「まね」



図2 「トンネル」



図3 「何本足」

【第2回研究会議】 日時：令和4年12月21日(水) 場所：山村学園短期大学
(出席者：太田、伊藤、福泉、山崎、楠原)

筆者より【創作に向けてのリサーチワークショップ】の実施報告を行なった。また、太田、伊藤より武蔵丘短期大学教員と学生による運動指導（月2回程度実施）の近況報告を受けた。また、よしみけやき保育所令和4年度前期運動能力テスト結果において、往復走・立ち幅跳び・テニスボール投げ・両足連続跳び越し・体支持持続時間の全項目が、全国平均より劣っていることを再確認した。そこで、それらの運動に関わっている動きを始め、「さまざまな動きを経験することのできる体操」をテーマに、体操を創作することに決定した。

【第1回体操創作】 日時：令和4年12月27日(火) 場所：都内公共施設
(出席者：楠原、こんどう、井上)

本体操の創作方法では、まず、筆者らが、幼児の運動解析による「苦手な動き」の抽出データ（主に、よしみけやき保育所令和4年度前期運動能力テスト結果）と【創作に向けてのリサーチワークショップ】で感覚的に把握した子どもたちの実態を踏まえて、体操の基本となる動き（振付）やリズム（作詞・作曲）等を創作することから始めた。創作上の留意点（表3）の①としてジャンプを中心とした動き（資料4-4～5）と、②として【創作に向けてのリサーチワークショップ】の「まね」で行なった、子どもたちの反応が良かった「バビブベボッ！」の動き（資料4-6～10）、同じく②として、

「からだじゃんけん」の動き（資料4-11～18）を考案した。声を発しながら動くことによる心身の解放感と、ある程度の運動量があるということを踏まえた結果、構成上、オープニング（導入）に位置することで仮決定した。

また、③として、【創作に向けてのリサーチワークショップ】で子どもたちの反応が良かった「トンネル」の動き（資料5-54～59）を後半部分のどこかに取り入れる方向で検討した。「トンネル」に関しては、筆者らが試した振付（トンネルのかたち）をそのまま行なうのではなく、二人組で、ひとりが即興でトンネルをつくり、もうひとりがそのトンネルをくぐるといった、からだあそびの内容を活かしたものであった。

創作過程の報告は、筆者が、毎回、創作部分の動画や音源、構成表、経過報告書等を、共同研究者にメールで共有を行なうことにした。報告を受けた、太田、伊藤が、動きを中心に気になる部分についての意見や指摘を行ない、一方、福泉が、基本となる動きやリズム等を活かした音楽の作曲と編曲を行なった。

【第2回体操創作】 日時：令和5年1月17日(火) 場所：都内公共施設

（出席者：楠原、こんどう、井上、有吉）

構成の完成を目指し創作を行なった。まず【第1回体操創作】で仮決定したオープニングの部分（資料4-4～18）にどのような動きを取り入れるか検討した。ある程度運動量の多いオープニング後のため、ここでテンポを一度ゆっくりにし、丁寧に動きを行なっていく流れにした。また、子どもたちが変身して動きながら楽しめるように、動物をイメージした動きを取り入れることにした。

そこで、【第1回体操創作】後の太田、伊藤からの指摘を受けた動きを取り入れた。具体的には、自分の身体を支える動き（体支持持続／資料4-21）を「象」に、力を貯めてジャンプ（腿上げ／資料4-28、30）を「ガゼル」に、ボールを前に投げるような動き（ボール投げ／資料4-37）を「コブラ」に、そして、片足で身体を支える動き（片足ケンケン／資料4-39～45）を「ゴリラ」に取り入れて創作をした。なお、5歳児の子どもたちにあまり馴染みがないと思われる「ガゼル」と「コブラ」に関しては、イメージしやすいように、子どもたちへの振り入れワークショップ前に画像や動画を観てもらうように配慮した。

そのほか、力を貯めてジャンプ（腿上げ／資料4-60、63）と、腕を前後に振って前に跳ぶ動き（立ち幅跳び／資料5-61～62、64～65）を組み合わせ、エンディングへ向かって盛り上げていく部分に取り入れて創作した。

さらには、冒頭（資料4-1～3）の部分は、体操のタイトルコールで、元気よく明るく始めるようにした。エンディング中盤（資料4-67～69）では、子どもたち一人ひとりが自分なりのイメージのなかで、最大限運動量をあげて動けるように、「めちゃくちゃへんしん」という動きを取り入れた。そして、最後のエンディング後半（資料4-70～74）では、本体操の象徴でもある「バビブベボッ！」の動きを、もう一度行なって

フィニッシュにすることとした。

多くの動きを取り入れた結果、運動量は多くなったが、子どもたちや保育士にとって、一つひとつの動きがわかりやすいように、歌詞やかけ声、そして、そのリズム、テンポ等と動きに関連を持たせるように工夫をしたり、子どもたちがもし途中で動きを忘れてしまっても随時入れるように、比較的動きを繰り返す部分を増やしたりした。

この時点では、まだ【第2回体操創作】であったが、創作上の留意点（表3）の一つである「② 子どもたちが動きとイメージを結びつけやすくなる言葉（オノマトペ等）」を、体操中のかけ声に数多く取り入れることで、動き（振付）だけでなく、リズム（作詞・作曲）も伴ったトータルでの創作になり、一気に構成を完成させることができた。しかしながら、完成された構成が、筆者の口ずさむアカペラで動いた動画を通してでは、共同研究者間でのイメージの共有は難しいと思われた。そのため、筆者の身体表現ワークショップで十年来関わってくれている、ドラマーの有吉に音楽協力としてドラムで演奏してもらい、動画を撮影することにした。そして、その動画を通して、共同研究者でイメージの共有を図り、次の展開に進むことにした。

【第3回体操創作】 日時：令和5年1月27日(金) 場所：都内公共施設

(出席者：楠原、井上)

【第2回体操創作】での完成版から、動きの明確化を図った。また、歌詞やかけ声がより動きと連動するように一部改訂をした。そして、体操の納品後、保育士がリードして体操を行なう上で、補助的な資料となるように、振付図解の作成準備を始めた。図解作成を井上が、イラストをこんどうが担当した。さらに、見本動画の製作についても検討を行なった。さまざまな媒体の資料を納品することで、創作者の手元から離れた体操を、保育士と子どもたちで活用していくことができると考えた。また、観たり聴いたりするだけでも楽しめる資料を製作したいと考えた。

【第4回体操創作】 日時：令和5年2月14日(火) 場所：都内公共施設

(出席者：楠原、こんどう、井上)

【第3回体操創作】と音楽第一稿（伴奏のみ）の完成を経て、見本動画の撮影に向けて、動きと歌詞の役割分担等について最終調整し、体操を完成させた。見本動画を撮影し、後日、タイトルと作品のクレジットを入れ、2バージョン（ノーマルバージョン、反転バージョン）を製作した。鏡のように左右を意識することなく、再生されている動画をそのまま鏡を見るようにして、まねしながら覚えやすいように、反転バージョンの動画も製作した。また、振付図解を完成させた。そして、5歳児クラスの子どもたちへの振り入れワークショップに向けての準備を行なった。

【第5回体操創作（振り入れワークショップ）】 日時：令和5年2月14日(火)

場所：よしみけやき保育所

(出席者：太田、伊藤、山田、福泉、山崎、楠原、こんどう、井上、
保育所職員9名、5歳児41名)

よしみけやき保育所にて、5歳児への振り入れワークショップを実施した(図4～7)。2クラス合同、90分。身体表現あそびをしながら徐々に体操を掴んでいけるように、また、比較的長時間でも飽きないように、展開等を工夫して行なった。

まずは、「まね」のなかに、体操の動きをほぼすべて取り入れて、子どもたちがまねをしながら、知らないうちに動きを覚えていけるようにした。

次に、体操の後半にある「トンネル」を、体操の振り入れの隊形に並んだ上で、隣同士の二人組で、体操の流れと同じような順番で行なった。【創作に向けてのリサーチワークショップ】からは二ヶ月経っていたことや、前回欠席していた子どもたちもいたこともあって、体操の振り入れ前に一度行なったことでよい準備となった。

そして、最後に「振り入れ」を行なった。「振り入れ」では、まず、こんどうと井上による見本を見てもらい、その後、体操を三つ（オープニング、展開、エンディング）に区切って振り入れを行なった。各パートが終わるごとに休憩を入れながら展開し、最終的にオープニングからエンディングまで通すことができた。途中、数人の子どもたちはそれぞれのコンディションにより、疲れてしまったり、集中が途切れて休んでいる子どもたちもいたが、基本的にホールにいて、他の子どもたちが動いている姿を見たり、言葉で反応したりしていた。また、本学の卒業生である保育士2名が、後方で子どもたちの見本となるように取り組んでくれたことや、多くの保育士が配慮の必要な子どもたちに適宜支援をしてくださったおかげで、大きな問題もなく終了することができた。終了後、まだまだ体操をしたいと言っていた子どもたちが沢山いたことは嬉しい限りであった。念入りに準備はしていたが、何よりも保育所側のご協力があったことは非常に大きかった。

振り入れ後、控室に、太田、伊藤、山田、福泉、山崎、筆者、こんどう、井上が会して、改善点等について振り返りを行なった。

太田、伊藤からは、子どもたちが行なった際に、間違っていたり、意識ができていなかったりした動きについて指摘を受けた。具体的には、左右の違い、顔の向き、手のかたち、投げ方、トンネルのかたち、止まる長さ等であった。筆者は、その点について改善するために、前回よりもわかりやすい振付図解のイラストと解説文に改訂し、振付図解でより理解できるようにした。

一方で、保育所の所長や主任が話していたように「日常の遊びから運動会や町のイベントでの発表の場まで」、保育の活動の目的に応じて、さまざまなあそび方を楽しんでもらえるように、「＜補足資料＞よしみけやき保育所体操『へんしんからだあそびバビブベポッ！』のあそび方」（資料6参照）を作成することにした。また、筆者と

しても、「さまざまな動きを経験することのできる」ための基本型はありつつも、保育所での活動の目的に応じて、さまざまなあそび方ができる末長く活用してもらえる体操であってほしいという願いもあったため、あそび方の作成を行なうことにした。



図4 振り入れワークショップの様子①



図5 振り入れワークショップの様子②



図6 振り入れワークショップの様子③



図7 振り入れワークショップの様子④

【第5回以降の創作】 日時：令和5年2月15日(火)～3月14日(水)

場所：山村学園短期大学ほか

(出席者：福泉、楠原、こんどう、井上)

筆者ら（楠原、こんどう、井上）により、振付図解とあそび方が完成した。

見本動画では、第一稿（伴奏のみ）の音源に、筆者らの声をビデオカメラに直接収録していた。そのため、福泉により、保育所に贈呈するための音楽の編集作業に取り組んでもらった。筆者としては、体操のあそび方に応じて、音楽も選べることが理想であったため、3バージョン（フルバージョン（保育士役＋子ども役）・保育士バージョン（保育士役）・インストバージョン（伴奏のみ））製作することに決定した。

まず、動物の動きをイメージさせる効果音等を入れて編集を繰り返し、インストバージョン（伴奏のみ）が完成した。次に、保育士役の筆者の声を収録、編集し、保育士バージョン（保育士役）が完成した。最後に、子ども役のこんどうと井上の声を収録、編集し、フルバージョン（保育士役＋子ども役）が完成した。

その後、すべての資料が揃ったところで、完成版資料一式（見本動画2バージョン（資料1、2参照）、音楽3バージョン、構成表（資料3参照）、振付図解（資料4、5参照）、＜補足資料＞あそび方（資料6参照））の合計8点を保育所にデータで送付し、納品を行なった。

【贈呈式】 日時：令和5年3月16日(木) 場所：よしみけやき保育所

(出席者：吉見町町長、町長秘書、子ども支援課課長、
保育所所長、主任、太田、伊藤、福泉、山崎、楠原)

吉見町町長、町長秘書、子ども支援課課長、保育所所長、主任、太田、伊藤、福泉、山崎、筆者が出席して、贈呈式が行われた。贈呈式では、町長の挨拶、本研究の代表者である太田の挨拶があり、そして、本体操の音楽が収録されたCDと振付図解が、福泉と筆者から町長に贈呈された。その後、出席者一同で記念撮影を行なった。

町長からは、本体操を保育所のみならず、世代も超えて、町ぐるみで活用していきたいといった話があった。本体操が、創作者の手から離れ、自治体の人々の手によって、さまざまなかたちで活用してもらえることは、筆者にとってはこの上なく喜ばしいことである。必要に応じてサポートさせていただきながら、今後の展開を楽しみにしながら見守りたい。

IV おわりに

筆者にとって体操の創作は初めての取り組みであり、かつ、非常に短期間での取り組みであった。しかしながら、複数の創作者が各々の専門を活かし、役割を分担したことで、比較的計画通りに進めることができた。そして、子どもたちの実態を把握した上での創作だったため、創作上の留意点を踏まえつつ、さまざまな動きを経験することのできる体操を完成し、子どもたちと保育士に喜んでもらうことができた。

また、保育所所長や主任からは「日常の遊びから運動会や町のイベントでの発表の場まで」、保育の活動の目的に応じてさまざまに活用していきたいと話があった。吉見町町長からは、保育所のみならず、世代も超えて町ぐるみで活用していきたいと話があった。本体操が、保育所や地域の人々によって、さまざまに展開され、広く地域社会へ貢献できるのであれば、創作者としてこの上ない喜びである。

一方で、本研究の目的には「幼児の運動能力の向上に役立てる保育所オリジナルの体操を、子どもの苦手な動きを取り入れて創作すること」とあるが、実際に運動能力の向上に寄与できたかどうかは、今後の継続した調査が必要である。そして、もし改善できないのであれば、体操を改訂していく必要は大いにある。その点に関しては、運動・動作解析を中心に担当する武蔵丘短期大学と連携しながら、今後も注視していきたい。

本稿では、筆者が担当した動きづくりと音楽を中心に、よしみけやき保育所体操『へんしんからだあそび バビブベボッ!』の創作過程を報告した。本稿は、ある一つの幼児対象の体操の創作過程の報告に過ぎないが、実践例として、今後体操を創作するものにとっての手掛かりになれば幸いである。

謝辞

本研究を行なうあたり、保育所での打ち合わせやワークショップにて、いつもあたたかく迎え入れてく

ださり、また、周到的準備をしてくださった、よしみけやき保育所の先生方に心より御礼を申し上げます。
また、よしみけやき保育所体操『へんしんからだあそび バビブベボッ!』を楽しんで行なってくれた5
歳児クラスの子どもたちにも、心より感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 文部科学省『幼児期運動指針』文部科学省，2012年
- 2) 文部科学省『幼児期運動指針ガイドブック』文部科学省幼児期運動指針策定委員会，2012年

＜資料１＞ よしみけやき保育所体操 『へんしんからだあそび バビブベポッ！』 見本動画



＜資料２＞ よしみけやき保育所体操 『へんしんからだあそび バビブベポッ！』 見本動画 反転 ver.



＜資料 3＞ よしみけやき保育所体操 『へんしんからだあそび バビブベポッ！』 構成表（全 5 頁）

令和 5 年 2 月 14 日
作成：楠原電也

よしみけやき保育所体操『へんしんからだあそび バビブベポッ！』 ＜3分45秒＞ 構成表

※ 黄色 の部分は、子どもたちにかき声を出してもらいたいところです。

Scene No.	Scene	Count (Time)	内容	主な基本的な動き
0	前奏 0'00~	8×2 (約 8 秒)	後ろを向いて、腰に両手グーをあててポーズでスタンバイ。 「へ・ん・し・ん からだあそび Ready Go!」で、半転して両手突き上げてポーズ。	とぶ（垂直）、おす（おしだす）
1	オープニング① (導入①) 「バビブベポッ！」 0'08~	8×2 8×1 8×1 4×1 4×1 4×1 4×1 8×2 (約 34 秒)	「ジャンプ！」両手バーを挙げて（または、上に押し上げて）、両足ジャンプ。 「右回り」両手グーで、片手ずつ押し出ししながらその場で走りながら右回り。 「左回り」両手グーで、片手ずつ押し出ししながらその場で走りながら左回り。 「バー！」足を揃えて、両手横に広げてポーズ。 「ビー！」両手を回しながらしゃがんで、後ろに出してポーズ。 「プー！」下から上に揺れながら立ち上がってポーズ。 「ペー！」両手を広げながらウェーブをしてポーズ。 「ポッ！」「ポッ！」「ポッ！」「ポッ！ポッ！ポッ！ポッ！」 足を出しながら、両手を身体の前で上に向かって押し出して進む。	とぶ（垂直） 片足でとぶ（垂直）、まわる（自転） 片足でとぶ（垂直）、まわる（自転） おす（おしだす） まわす、しゃがむ、おす（おしだす） たちあがる、ふる ふる おす（おしだす）、あるく
2	オープニング② (導入②) 「からだじゃんけん」 0'27~	12×1 12×1 12×1 12×1 12×1 12×1 (約 27 秒)	「からだじゃんけん バー！」 腕を身体の前でぐるぐるしながら、右回りをして、手足 X ポーズ（a）。 「からだじゃんけん じゃんけん チョッキ！」 腕を身体の前でぐるぐるしながら、右回りをして、手足前後ポーズ（b）。 「からだじゃんけん じゃんけん グー！」 腕を身体の前でぐるぐるしながら、右回りをして、しゃがんでポーズ（c）。 「バー！ チョッキ！ グー！」 4 カウントずつ、abc の順にポーズ。 「チョッキ グー チョッキ グー バーーーーーー！」 2 カウントずつ、cbcba の順にポーズ。「バー！」でゆっくりなテンポになる。	まわる（自転）、まわす（腕）、たつ まわる（自転）、まわす（腕）、しゃがむ たつ、しゃがむ たつ、しゃがむ、まわる（自転） たつ、しゃがむ、広げる

令和 5 年 2 月 14 日
作成：楠原電也

3	展開① 「へんしんどうぶつ」 1'01~	8×1 8×1	「両手をついて へんしん」 両ひざをついた四つん這いになる。 「（次のゾウのリズム音で）」 顔を上げて前を見たまま、首とお尻をフリフリ 4 回。	支える 支える
	「ゾウ」	8×2 8×2	※左右どちらから振ってもよい。 「のーしのっし のーしのっし ゴーウがゆく パオーン！」 膝はつかずに、右足上げ 左足上げ 右手を鼻に見立て横に八の字を描き、下に降ろして上にあげる。 「のーしのっし のーしのっし ゴーウがゆく パオーン！」 膝はつかずに、右足上げ 左足上げ 右手を鼻に見立て横に八の字を描き、下に降ろして上にあげる。	支える 支える
	「ガゼル」	4×1 8×2	「（1 2 3 4）タンタンタンタン（歌詞はなしでカウントを刻む音）」 ※次の動物へのプレパレーションとしての時間 両手頭の上でクロスしてガゼルの角をつくる。 「ビョビョンビョビョンビョン ビョビョンビョビョンビョン ガゼルがビョビョーン！」 「ビョーン…」で小走り「ガゼルが」で踏ん張って「ビョビョーン」で腿上げジャンプ 「ビョビョンビョビョンビョン ビョビョンビョビョンビョン ガゼルがビョビョーン！」 「ビョーン…」で小走り「ガゼルが」で踏ん張って「ビョビョーン」で腿上げジャンプ	跳ぶ、腿上げ 跳ぶ、腿上げ
	「コブラ」	4×1 8×2	「ドン（1 2 3 4）」 「ドン」でしゃがんで、両手をくっつけて、手を立ててポーズ ※次の動物へのプレパレーションとしての時間 「ニョロニョロニョロニョロ シュルルルルルル カアー！」 「ニョロ…」くっついた両手で左右にヘビの動き 「シュル…」右まわりして、顔の前で右上にしてポーズ 「カアー！」で両手（コブラの口）を開いて、カアーと顔を出す。	まわる

よしみけやき保育所体操

令和5年2月14日
作成：楠原電也

	「ゴリラ」	8×2 「ヒュルルルー ヒュルルルー どくをはく シャーッ！」 「ヒュルルルー」で右手（コブラの舌）を出す 「どくをはく」で両手をおなかの前でぐるぐるまわす 「シャーッ！」で右手を振り上げて毒を投げて、そのままポーズ。 4×1 「ドドドド（1234）」 投げたままのポーズでストップ 8×1 「ドドドドドドドド ドドドゴリラ！」 両手で胸を叩きながら右まわり一周 ※次の動物へのプレパレーションとしての時間 8×1 「ドドドン ドッド ドラミング！」 右片足&右手胸打ちでケン 左片足&左手胸打ちでケン 右片足&右手胸打ちでケンケンケン 8×1 「ドドドン ドッド ドラミング！」 左片足&左手胸打ちでケン 右片足&右手胸打ちでケン 左片足&左手胸打ちでケンケンケン 8×1 「ドドドン ドッド ウホホホーッ！」 右片足&右手胸打ちでケン 左片足&左手胸打ちでケン 右片足&右手胸打ちでケンケンケン 「ドドドン ドッド ウホホホーッ！」 左片足&左手胸打ちでケン 右片足&右手胸打ちでケン 左片足&左手胸打ちでケンケンケン (約78秒)	投げる 支える（片足立ち、ケンケン） 支える（片足立ち、ケンケン） 支える（片足立ち、ケンケン） 支える（片足立ち、ケンケン）
4	展開② 「アニマルトンネル①」 2'17~	8×1 「ゾウ！」 呼応して子どもたちが「ゾウ！」 両足ひらいて四股踏み姿勢で、右手を股下から振り上げてポーズ 8×1 「ガゼル！」 呼応して子どもたちが「ガゼル！」 両手頭の上でクロスして角をつくってガゼルポーズ 8×1 「コブラ！」 呼応して子どもたちが「コブラ！」 しゃがんで、右手上にして両手を開いてコブラポーズ 8×1 「ゴリラ！」 呼応して子どもたちが「ゴリラ！」 両足ひらいて四股踏み姿勢で、両手を胸にあててゴリラポーズ	止まる、止める 止まる、止める 止まる、止める 止まる、止める

3

令和5年2月14日
作成：楠原電也

		4×1 「アニマルトンネル！」 ゴリラポーズのままでストップ 4×1 「(ドドドドドドドド)」 ゴリラポーズのまま、足踏みしながら隣りと（ペアで）向かい合う 4×1 「アニマルトンネル！」 （隣りと向かい合ったまま）両足開いて四股踏みポーズで両手を内回し 4×1 「Ready Goll」 踏ん張ってから両手を上げてジャンプ！ (約18秒)	止まる、止める まわす まわす 跳ぶ
5	展開③ 「アニマルトンネル②」 2'35~	※隣りの子ども同士でペアで行なう。自分で考えたトンネルでOK。 8×2 「(メロディー) 3 2 1 Goll」 (16×1) Aさん（向かって右側）：トンネルをつくる。 Bさん（向かって左側）：膝をついて、Aさんがつくったトンネルを両手で繋ぐ。 8×2 「(メロディー) はいクリア！」 (16×1) Aさん（向かって右側）：トンネルのままポーズ。 Bさん（向かって左側）：Aさんのトンネルをくぐって、元の位置へ戻る。 A、Bさん：右腕を挙げてガッツポーズ。 ※役割交代してもう一回行なう。自分で考えたトンネルでOK。 8×2 「(メロディー) 3 2 1 Goll」 (16×1) Bさん（向かって右側）：トンネルをつくる。 Aさん（向かって左側）：膝をついて、Aさんがつくったトンネルを両手で繋ぐ。 8×2 「(メロディー) はいクリア！」 (16×1) Bさん（向かって右側）：トンネルのままポーズ。 Aさん（向かって左側）：Aさんのトンネルをくぐって、元の位置へ戻る。 A、Bさん：右腕を挙げてガッツポーズ。 (約31秒)	たつ（たちあがる、かがむ、しゃがむ）、 おきる（ねころぶ〜おきあがる）、 ささえる はう、くぐる（くぐるぬける）、はしる たつ（たちあがる、かがむ、しゃがむ）、 おきる（ねころぶ〜おきあがる）、 ささえる はう、くぐる（くぐるぬける）、はしる

4

令和5年2月14日
作成：楠原電也

6	エンディング 「めちゃくちゃへん しんバビバポッ！」 3'06~	8×1	「はしって〜！」 その場でかけ足	走る
		8×1	「まわしてまわしてまわしてまわして みんなでジャンプ！」 両足揃えて、両手をゆっくり一回まわして振りかぶって、立ち幅跳び。	両足跳び（立ち幅跳び）
		8×1	「はしって〜！」 跳ぶ前の位置に戻りながらかけ足	走る
		8×1	「まわしてまわしてまわしてまわして みんなでジャンプ！」 両足揃えて、両手をゆっくり一回まわして振りかぶって、立ち幅跳び。	両足跳び（立ち幅跳び）
		8×1	「はしって~~~~~！はしって~~~~~！」 走りながら右まわり一周（左周りでも良い）。	走る
		8×1	「まわしてまわしてめちゃくちゃまわして まわしてまわしてめちゃくちゃまわして」 両足開いてバタバタしながら両手を内回し	まわす
		8×2	「へんしんへんしんめちゃくちゃへんしん へんしんへんしんめちゃくちゃへんしん めちゃくちゃへんしんめちゃくちゃへんしん めちゃくちゃめちゃくちゃへんしん~~~~ん！」 全身使ってめいっぱい動く	さまざまな動き
		4×1	「パー！」足を揃えて、両手横に広げてポーズ。	おす（おしだす）
		4×1	「ピー！」両手を回しながらしゃがんで、後ろに出してポーズ。	まわす、しゃがむ、おす（おしだす）
		2×1	「プー！」下から上に揺れながら立ち上がってポーズ。	たちあがる、ふる
		2×1	「ペー！」両手を広げながらウェーブをしてポーズ。	ふる
		2×1	「ポッ！」両足広げて四股を踏み、両手のひらを上に向けてポーズ。	おす（おしだす）
		(約39秒)		

＜資料6＞ ＜補足資料＞よしみけやき保育所体操『へんしんからだあそび バビブベボッ!』のあそび方

＜補足資料＞



よしみけやき保育所体操
『へんしんからだあそび バビブベボッ!』のあそび方

- ・日々の活動として行なう場合(あそび等)、
子どもたちが楽しめることを優先して、
向きや回数などにとらわれずに行なってください。
- ・発表等でみんなの動きを揃えたい場合は、
先生や子どもたちで相談をして、
向きや回数等を決めていただいて構いません。
- ・トンネルは、自分のからだでトンネルをつくれば、
どんなかたちでも構いません。
簡単でも難しくてなんでも OK です。
- ・屋外でトンネルを行なう場合は、大きめのトンネルや
空中トンネル等をつくり、工夫をしてみてください。
- ・そのほかにも、先生方と子どもたちで
いろいろ工夫をしてあそんでみてくださいね！

体操をつくったひとたちより



前 号 目 次

- 福泉 博子 酒井 誠 楠原 竜也 室井 佑美
学内子ども参加型イベント「Yamamura Jufla Jufla」に対する子供たちの
受け止め方について（１）－ストーリーに対する保育者の視点から－
- 酒井 誠 室井 佑美 楠原 竜也 福泉 博子
学内子ども参加型イベント「Yamamura Jufla Jufla」に対する子供たちの
受け止め方について（２）－イベントのマネジメントに対する保育者の視点から－
- 巢立 佳宏 酒井 誠 山村 穂高 橋本 淳一
保育内容の実践における暗やみ空間の効果と可能性
- 巢立 佳宏 橋本 淳一 酒井 誠 山村 穂高
実習生にとっての巡回指導の役割と課題
- 酒井 誠 巢立 佳宏 山村 穂高 橋本 淳一
子どもの遊びにつながる秘密基地の存在－保育者のインタビューを通して－
- 室井 佑美
ICT 教育を含めた保育活動の展開における学生の学習効果に関する一考察（１）
－ Zoom を用いた短期大学生と保育園児との交流ふりかえりレポートから－

【山村学園短期大学 紀要第28号増刊号】

- 山村 穂高 卯月 早帆
「気になる子」の保護者への具体的な支援に関する先行研究について
－保護者との信頼関係の構築と「伝え方」－

山 村 学 園 短 期 大 学
図 書 ・ 紀 要 委 員 会

野 口 一 夫

福 泉 博 子

酒 井 誠

山村学園短期大学紀要 第33号

2023年3月31日 発行

編集者 山村学園短期大学 図書・紀要委員会

発行者 山村学園短期大学 子ども学科

代 表 野 口 一 夫

埼玉県比企郡鳩山町石坂604

〒350-0396 TEL 049-296-2000 代

印刷者 有限会社 須賀印刷

埼玉県川越市小仙波町2-12-1

〒350-0036 TEL 049-222-1989

THE BULLETIN OF YAMAMURA GAKUEN COLLEGE

Volume 33

TACHIBANA Kazuyo SAKAI Makoto SUDATE Yoshihiro

Exploring the current situation of playing with newspapers in childcare settings
- Add appeared (a modeling) perspective -

MUROI Yumi

A study on the learning effects of experiential learning in early childcare and
education training
~ From the retrospective report on the practice at the on-campus children's
participation type event ~

KUSUHARA Tatsuya

Yoshimi Keyaki nursery gymnastics
"HenshinKaradaAsobi Ba-Bi-Bu-Be-Bo!" Creation process report
- From Musashigaoka College and Yamamura Gakuen College joint researchin 2022 -

YAMAMURA GAKUEN COLLEGE
THE DEPARTMENT OF EARLY CHILDHOOD CARE AND EDUCATION

2022